

令和6年度 事業報告書

2024 LEAF



鹿児島県 奄美パーク

令和6年度 事業報告書

2024 LEAF

鹿児島県 奄美パーク

目 次

第1	鹿児島県奄美パーク概要	1
第2	令和6年度の事業実績について	2
第3	奄美の郷企画事業	
1	季節感(年中行事)を取り入れたイベント	
(1)	あまみっ子フェスタ	3
(2)	ネリヤカナヤフェスタ	5
①	フラダンスパーティー	5
②	奄美の海洋写真展	6
③	貝殻フォトフレーム作り	6
④	第5回 ウォーターパーティー in 奄美パーク	7
⑤	サマーコンサート	8
(3)	奄美パーク夏祭り「～シマジマだより～喜界島」	9
(4)	奄美パーク音楽感謝祭 フユウンメコンサート	10
(5)	奄美パーク春祭り～サンガツサンチ～	11
2	わきゃステージ in パーク事業	
(1)	民謡民舞少年少女奄美連合大会・奄美シマ唄日本一大会	12
(2)	藤扇流奄美本部「秋振る舞」	13
(3)	ディ！まーじん島口でゆらおうディ	13
(4)	民謡民舞奄美連合大会	14
(5)	第27回朝花節大会	15
(6)	2024 奄美 美の競演	16
(7)	オモロー授業発表会 in 奄美	17
3	自主企画事業	
(1)	奄美の郷ライブステージ	18
①	風薫る五月 うたと舞のステージ	18
②	梅雨空を吹き飛ばせ！歌声パーク	19
③	なちかしゃ 昭和歌謡祭	20
④	奄美パーク新春歌謡祭～懐かしの昭和歌謡，島唄，奄美歌謡まで～	21
⑤	奄美パーク パフォーマンスバトル	22
(2)	第18回 奄美パーク わらベシマ唄大会	23
(3)	奄美パーク わくわく遊び広場	24
(4)	奄美パーク ハロウィンイベント	25
(5)	奄美パーク文化講演会「2024年の言葉を振り返る」講師：やくみつる氏	26
(6)	第18回 奄美パーク 子どもクリスマス会	27

(7) 奄美パーク 初春唄あしび	28
(8) 奄美パーク新春寄席・出張寄席	29
第4 田中一村記念美術館企画事業	
1 奄美関連作家による企画展	
(1) きょうだい展	30
(2) 奄美カメラ部写真展	31
(3) 第3回 奄美の星空 写真・アート展	32
(4) 奄美へ	33
2 第70回記念 県美展 奄美関連作家展	34
3 第23回 奄美を描く美術展	35
4 美術講演会	
展示会の舞台裏－田中一村展ができるまで－	41
講師：東京都美術館学芸担当課長 中原 淳行 氏	
5 第14回 田中一村記念スケッチコンクール作品展	42
6 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展	44
7 第3回 奄美を写す写真展	45
8 創作体験教室	
(1) 日本画講座	50
(2) 写真講座	51
9 夏休みワークショップ	
(1) 親子草木染め体験	52
(2) 夏休み親子バックヤードツアー & 鑑賞会	53
10 その他自主企画事業	
(1) 学芸専門員派遣授業事業	54
(2) 田中一村記念美術館「リモート鑑賞授業」	55
(3) 一村キッズクラブ	56
(4) 田中一村終焉の家と、一村キッズクラブ	60
第5 奄美パーク応援隊	61

第1 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設設置の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホール、奄美シアター及び人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月 平成13年9月30日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎 緑（千葉商科大学 学長，
元NHK「NC9」ニュースキャスター）

6 園地面積 約77,000㎡

7 総事業費 約76億円（開園時）

8 施設の概要

(1) 奄美の郷（延べ床面積約3,200㎡）

白い貝殻をイメージした外観

建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形

○総合展示ホール・奄美シアター（有料）

○アイランドインフォメーション、イベント広場、レストラン、売店

(2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約2,500㎡）

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用

○常設展示室・特別展示室（有料）

○企画展示室、ガイダンス室、図書資料室、喫茶、ミュージアムショップ

(3) 一村の杜（面積約7,000㎡，平成19年7月20日完成）

6つのスポットで構成されている遊歩道

田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽

(4) その他の施設

多目的広場（約3,780㎡）、野外ステージ、展望台、駐車場（約240台）

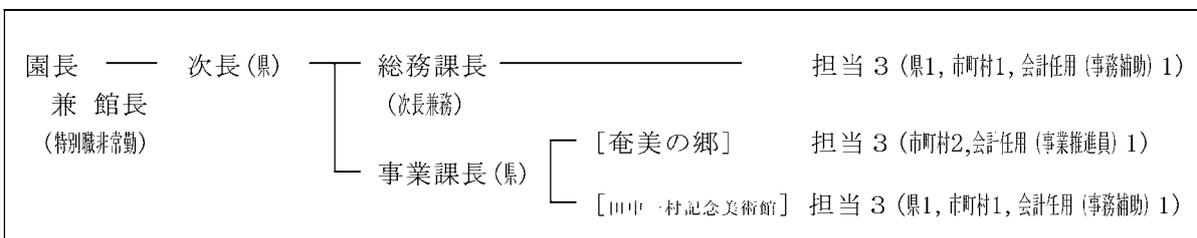
9 観覧料金 共通観覧料： 一般 630円（20人以上の団体は500円）
（R1.10.1改定） 高・大学生 420円（同 330円）
小・中学生 310円（同 240円）

10 休園日 毎月第1，第3水曜日
（4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3は開園）

11 開園時間 9：00～18：00（7月，8月は19：00まで）

12 入館者数 令和7年3月31日現在 約2,985千人（延べ人数）

13 組織 計12名（県職員4，市町村職員4，会計年度任用職員3，特別職非常勤職員1）



第2 令和6年度の事業実績について

「奄美の郷」では、総合展示ホール、奄美シアター、アイランドインフォメーションにおいて奄美群島の自然、歴史、文化などの多彩な魅力を紹介し、イベント広場では島唄・伝統芸能などのイベントを定期的に開催しています。

「田中一村記念美術館」では、日本画家「田中一村」の作品を常設展示するほか、企画展示室において奄美関連作家による企画展、小中学生による「田中一村記念スケッチコンクール」などの作品展を定期的に開催しています。

令和6年度は、「ネリヤカナヤフェスタ」「フユウンメコンサート」「サンガツサンチ」等、奄美ならではの季節感を取り入れたイベントや、「わくわく遊び広場」「ウォーターパーティー」等、子どもたちが参加できるイベントも定着し、多くの来園者に楽しんでいただきました。

8月の「奄美パーク夏祭り～シマジマだより～喜界島」では、喜界町から総勢44名が出演し、島唄や太鼓、フラダンス等を披露いただきました。また、1月の「出張寄席」は徳之島町で開催し、落語や演芸を多くの方が楽しんでくださるなど、群島を繋ぐイベントも盛り上がりしました。

また、奄美群島在住の皆さんに奄美パークのステージを活用していただく「わきゃステージ in パーク」事業では、3月に、公立小中学校の先生たちが中心となり、教育や授業について熱く語り合う「オモロー授業発表会」が離島では初めて開催されました。

田中一村記念美術館では、開館以来続く「奄美を描く美術展」や、3回目の開催となる「奄美を写す写真展」の公募展には今年度も多くの作品が寄せられました。

また、田中一村終焉の家でスケッチや清掃を行う「一村キッズクラブ」の活動を紹介した企画展「田中一村終焉の家と、一村キッズクラブ」も好評を博しました。

9月から12月にかけて東京都美術館にて、過去最大規模の回顧展「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」が開催されました。テレビや雑誌等でも田中一村について多く取り上げられ、期間中、約29万人が来場し大盛況のうちに閉幕しました。開催中から美術館への問い合わせも多く寄せられ、美術館への来館を目的に奄美への旅行を計画したという観光客も増えてきています。

これからも、奄美群島全体の観光拠点施設として、また人々の交流の場所として、奄美群島への誘客を促進し、更なる情報発信と様々な事業を展開してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷



田中一村記念美術館

第3 奄美の郷企画事業

1 季節感（年中行事）を取り入れたイベント

(1) あまみっ子フェスタ

- ア 開催日時 令和6年5月3日（金・祝）
午前の部 10：30～12：00，午後の部 13：30～15：20
レクリエーション 11：00～14：00（奄美市レクリエーション協会）
- イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場
- ウ 入場者数 約825名（YouTubeLIVE 視聴者数9名）
- エ 内 容

奄美群島内の子どもたちによる郷土芸能の発表や子どもを対象にしたイベントを開催し、地域の子どもの交流を図るとともに、奄美パークの利用促進を図ることを目的とし、毎年ゴールデンウィーク中の恒例イベントとして定着している「あまみっ子フェスタ」を開催した。

午前の部は「節田小学校アマンディー太鼓」による、力強い太鼓の響きで幕を開けた。新メンバーが加入間もないとのことであったが、息の合った演奏を披露し、学校での練習やチームワークの良さがうかがえ、開演から元気な演奏を届けてくれた。

続いて登場の「名瀬中学校吹奏楽部」は、初めての「あまみっ子フェスタ」出演であった。18名の部員で「名探偵コナンメインテーマ」を含む4曲を披露。「Sing Sing Sing」「銀河鉄道999」では、生徒たちがステージから手拍子を促し、会場も一体となり盛り上がった。

続いて、「フラカオスタジオ」が登場。最年少の3歳の子どもたちの可愛いフラダンスから高校生による本格的なフラダンスを披露。地元奄美出身の歌手、我那覇美奈さんの「月の雫」や映画リトルマーメイドの挿入歌「Under the Sea」など5曲に合わせフラを披露し、夏を感じさせる華やかなステージとなった。

午前の部最後に登場したゲストの大道芸人「クラウンじんごろう」によるショーでは、体重100キロの巨体を活かした、お笑い芸人のようなコミカルなトークとテクニックでマジックやジャグリングなどで会場を楽しませた。

また、11時から、出会いの広場周辺で、奄美市レクリエーション協会によるレクリエーションを行った。「こどもの日」にちなんで、新聞紙兜折りや風車作り、バルーンアート、フリスビー、昔遊びのコマ回しやけん玉などたくさんの子子どもたちが楽しんだ。コマ回しやけん玉は、保護者も子どもたちと一緒に夢中になっていたのが印象的であった。



午後の部は、「伊津部小学校さぎ波バンド」による三味線と太鼓の演奏で幕を開けた。代々引き継がれてきた伝統の「島のひびき」を軽快なリズムと動きで披露した。

続いては、初めての出演となる「赤木名中学校吹奏楽部」。小さい子どもたちに大人気の「アンパンマンのマーチ」から始まり、「情熱大陸」など4曲を披露した。演奏終了後は、観客からのアンコールもあり、急遽アンコール1曲を披露し、会場は大いに盛り上がった。

続いて、「奄美高等学校郷土芸能部」は、オレンジ色の揃いのハッピにハイビスカスの飾りを付け、シマ唄「朝花節」をじっくりと唄い聞かせた。「八月踊り」と「六調」では、客席に降りて観客も踊りに誘い、手拍子や踊りなど会場のお客様も楽しそうに踊っていた。

続いて「B → MATONDS ☆ DANCE STUDIO」はガラッと雰囲気を変え、パワフルなヒップホップダンスを披露した。4歳から中学生までの総勢31名の子どもたちがそれぞれお揃いの衣装で4組に分かれ、グループごとに息の合ったヒップホップダンスを披露。最後は、31名全員の迫力のあるダンスで会場を魅了した。

トリを飾ったのは、午前の部にも出演したゲストの「クラウンじんごろう」で、午前の部同様にコミカルなショーで会場を楽しませた。ステージ終盤、会場の中から選ばれた3名の子どもたちとの皿回しリレーは、見事に成功し、会場からは大きな拍手が起きた。ステージ前には、大勢の子どもたちが集まり大盛り上がりのステージとなった。

会場は、約830名の来園があり、ステージ発表やレクリエーションなど終日、多くの家族連れや観光客で賑わった。



(2) ネリヤカナヤフェスタ

①フラダンスパーティー

ア 開催日時 令和6年7月14日(日) 13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約320名 (YouTubeLIVE 視聴者数5名)

エ 内容

奄美の人々が「海」を信仰の対象にする風習にちなんで、来園者に奄美の海に興味を高めていただくとともに、地元住民や観光客との交流を図ることを目的とした「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとしてフラダンスを中心としたステージイベントを実施した。

始めに、宮崎緑園長が「ネリヤカナヤに思いをはせながら、フェスタの始まりとさせていただきます。本日はゆっくり楽しんでください」と挨拶した。

フラダンスは、奄美大島内6つの団体が第1部、第2部の2回に分けて出演し、日頃の練習の成果を披露した。ハワイのゆったりとした音楽やリズムカルな音楽など、小学生から大人まで総勢62名の出演者が華やかなフラダンスで多くの観客を魅了した。小中学生や高校生のダンスでは、客席から歓声上がるなど会場は、大いに盛り上がった。

第1部最後には、ゲストとして、笠利在住のミュージシャン「庄司棟馬」氏がアコースティックライブを披露。奄美パークでの演奏を楽しみにしていたと言う庄司氏は、オリジナル曲を含む4曲をしっかりと歌い上げた。中でも、オリジナル曲の「奄美大島」・「Sunset」は、会場の観客も聴き入っていた。

小学生の出演者は、「深く沈むステップが、練習より深く踏むことができた」「前より上手に踊れた」と笑顔で話した。来場者からは、「フラの曲に癒された。できるものなら習ってみたい」「手先の動きが優雅で島のムードにあっていると思った」「琉球舞踊に似たものを感じた。神様に捧げる踊りという共通性があるからかもしれない」「友達の笑顔が見られてよかった」などの話しがきかれた。

約320名の来園客がフラダンスや歌、写真展など鑑賞し、多くの家族連れや観光客などで賑わった。終演後は、出演者全員で記念撮影を行った。

【出演団体】

Ao-kai, リコフラダンス, ハウオリアイスタジオ, カレイオハウオリフラスタジオ, アロヒイリケアフラスタジオ, ALOHA HULA AMAMI ゲスト: 庄司 棟馬



②奄美の海洋写真展

- ア 開催日時 令和6年7月14日（日）～8月31日（土）
イ 場所 奄美の郷 アイランドインフォメーション窓側
ウ 入場者数 7月：3,854名 8月：7,143名 合計：10,997名
エ 内容

当写真展は、海をテーマにしたイベント「ネリヤカナヤフェスタ」の一環として、「奄美の海」の魅力を発信することを目的に開催した。今年は、瀬戸内町清水にある「マリンサービス あまん」に風景や生物の写真の提供をいただいた。

瀬戸内町の夕焼けをバックにした海と空の鮮やかなグラデーションを撮影した風景写真や龍郷町加世間峠から撮影した海の風景などを展示。また、海中を優雅に泳ぐウミガメや魚、サンゴなどの生物の写真や奄美の海を満喫できるカヤックやサップなどのマリンレジャーの様子を撮った写真など、50点の写真を展示した。

観光で訪れた方からは、「こんなきれいな景色が見られる場所があるんですね。ぜひ、調べて行ってみます」などといった感想が寄せられ、地元の方からも「素晴らしい写真ばかりで、感動しました」などといった感想をいただき好評であった。



③親子ワークショップ「貝殻フォトフレーム作り」

- ア 開催日時 令和6年7月28日（日）13：30～15：00
イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場
ウ 参加者数 親子9組27名
エ 内容

本イベントは、「海」を信仰の対象にする風習にちなんだ「ネリヤカナヤフェスタ」の関連イベントとして実施した。貝殻細工職人の松元勝彦氏よりレクチャーを受け、パーク職員が講師をつとめた。初めに、作成するフレームをイメージし、貝殻や飾りを選び接着していく作業を行った。参加者は、大小さまざまな形の貝殻やシーグラスをフレーム上に並べ真剣に構成を練っていた。接着作業は、冒頭説明した注意事項を守り、親子で協力して、楽しみながら行っていた。

フレーム完成後は、貝殻やシーグラスを使って、小物やアクセサリなども作った。小学1年の女の子は、貝殻を使ってヘアゴムの飾りを上手に作っていた。参加者全員が自ら工夫したり、大小さまざまな貝殻を組み合わせて可愛い生き物のオブジェを作るなど、想像力豊かに思い思いの作品を上手に作成しており、笑顔で楽しむ親子の様子が多く見られた。

完成後は、それぞれの作品を手に記念撮影を行った。参加者からは「難しかったけど楽しく作れた。思ったとおりにうまくできた」「楽しかったし、うまくできた」、一緒に参加した保護者からは「(長女は)海で貝殻を拾うのが好きなので、楽しんでいる姿が見られてうれしい」といった感想をいただいた。



④第5回 ウォーターパーティー in 奄美パーク

ア 開催日時 令和6年8月11日(日・祝) 10:00～12:00

イ 場所 奄美パーク 多目的広場

ウ 参加者数 22チーム×4名 計88名

エ 内容

奄美パークの屋外多目的広場を活用し、暑い夏の野外遊びの定番・水鉄砲を使ったチーム対抗バトルゲームを開催した。今年は4人1チーム(小学生以下の子どもが一人以上参加すること)の上限24チームの募集に対し、23チームの応募があり、抽選なしで全チームの参加が決定した。参加チームの顔ぶれは、子ども繋がりママ・パパ友で結成したチーム、親子チーム、小学生のみで結成した友達同士のチームと様々な構成となった。

当日は、イベント直前に子どもの発熱により1チームが欠場するといったアクシデントがあったものの、他22チームでの優勝を目指した白熱したバトルゲームを実施した。審判員に今年も地元のサッカー教室「SOCCER SHOP GOLD FOOT」の指導者2名の協力をいただいた。

ゲーム内容は、硬い紙を使用した金魚すくいのポイをマジックバンドで頭部に固定し、相手チームのポイを狙って撃ち合い、ポイの破れた数と残った紙の面積によって勝敗を決する単純なものでゲーム時間は1分間。22チームを3コートに分けて予選リーグ戦を行い、コート別に勝ち点の多い1チームずつ計3チームが決勝リーグへ進出。3チームによる総当たり戦を行い、優勝から第3位までを決定するというもの。ゲームでは大人も子どもも水まみれになりながら、ポイを狙って撃ち合った。体格に勝る大人が有利と思いきや、小回りがきき、水除け用に設置したテントに隠れる事ができる子どもたちの方が体力やすばしっこさで勝り、大人よりもかえって優勢だった。実際に優勝したチームは子ども中心のエントリーチームだった。

全てのゲームが終了した後表彰式を行った。優勝は、子供3人と大人1人で結成された「チームちゅばき」、準優勝は子ども2人と大人2人の親子で参加した「armyチーム」、第3位も同じく子ども2人と大人2人の親子で参加した「チームたつもとう」となった。それぞれ賞品の「花火詰め合わせセット」を贈り記念撮影を行った。その他、参加全チーム参加賞としてお菓子の詰合せを配布した。

気温34度、天気は晴れといった酷暑の中、頑張った子どもたちや童心に戻り過ぎてペース配分を怠りへトへトになった大人たちにも拍手を送りたい。

参加者からは、「楽しかった!また来年も参加します!」、「奄美パークの水鉄砲大会は幼児も参加しやすいので家族の夏の楽しい思い出になる」などの感想が聞けた。

今回の参加チームの中には常連チームも含まれており、奄美パークの夏休みのイベントとして定着していると感じたが、当日は地元の夏祭りなどの影響もあり地元の参加者がおらず残念だった。来年は地元からも多くのチームに参加してもらえるよう事前のPRを行いたい。



⑤サマーコンサート

ア 開催日時 令和6年8月25日(日) 13:30～15:30

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約120名(YouTubeLIVE 視聴者数9名)

エ 内 容

8月最後の日曜日に、去り行く夏を惜しむイメージで、ポップス、レゲエ、ウクレレ演奏などゆったりと楽しめる音楽を中心にしたコンサートイベントを開催した。

トップバッターは奄美市在住の若手シンガー幾優大さん。アコースティックギターを手に、等身大の思いを乗せたオリジナルソング4曲を伸びやかな力強い歌声で披露した。続いて、生涯学習講座ウクレレ教室笠利・龍郷チームの皆さんが登場。総勢19名で「想い出の渚」や「上を向いて歩こう」など懐かしい名曲を演奏した。奄美大島で活動している3人組のロックバンド“國創りの華”は奄美パークへの出演は初めてで、独特の世界観が広がるオリジナルソング3曲を披露した。奄美市笠利町在住の夫婦ユニット Yuzukana は、3歳の娘さんも一緒に舞台上がった。人気のオリジナルソング「カピバラのうた」では、かわいらしい振り付けを観客の皆さんと一緒に踊り、アットホームな暖かい雰囲気会場が包まれた。

トリを飾ったのは、徳之島在住のシンガーソングライター安田竜馬さん。ウクレレを弾きながらオリジナルソング6曲を披露した。代表曲の「徳之島ワイド」では、客席からの掛け声も響き、大いに盛り上がった。

観客からは「ゆったりとした時を過ごせた」「ウクレレを習ってみたいくなった」などの感想をいただいた。



(3) 奄美パーク夏祭り「～シマジマだより～喜界島」

ア 開催日時 令和6年8月17日(土) 13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約440名 (YouTubeLIVE 視聴者数10名)

エ 内容

奄美群島の島々から一つの島にスポットを当て、その島の伝統芸能に触れるとともに各島の人々と交流を図ることを目的としたイベントで、今回は「喜界島」をピックアップし、島唄や踊りなどの伝統芸能や喜界島の特産品が観客に当たる抽選会を実施した。

オープニングを飾ったのは、手話活動普及を目的に活動している「手話サークルミミ」で、黒の装飾に白い手袋といった手話が目立つような衣装を身にまとい、お母さんを鳥になぞらえて唄われた曲「ルリカケス」に合わせて手話を披露した。

次に、4歳～70代の広い年齢層で構成されているアヌエヌエ喜界フラ教室が出演。今回は、主に中高生と大人5名で涼し気な衣装を着飾り、活気あふれるフラダンスを披露して夏の暑さを振り払った。

また、島唄では、当パーク主催で毎年行っているわらベシマ唄大会で最優秀賞にもなった原田幸歩さんや奄美パーク開園20周年記念イベントにも出演した東郷さやかさん、そして、東郷さんも小学生の頃所属していた安田民謡教室(文化協会加盟名称「奄美芸能島唄研究会」)の生徒たちが出演。曲ごとの解説や魅力を交えつつ、力強くそして伸びやかな島唄を会場へ届けた。

その他にも、喜界島太鼓の「遊歩輝(ゆうぎ)」という演目では、マーチングバンドさながらのバチの持ち方で太鼓を叩き、物珍しさなども感じられる演奏を行い、喜界島うるまエイサーの演目では、固定して叩く喜界島太鼓とは違い、肩に背負う型で全身を大きく動かしながら一味違った体の芯に響くような迫力のある演奏を見せた。抽選会に入る前の区切りとして、出演者全員で奄美でも馴染みのある六調を披露した。

最後の抽選会では、花良治ミカンを使用した麺つゆやキャンディ、ごましお、喜界高校生が造った焼肉のタレ、ざらめ糖などをスクリーンに投影しつつ解説を行い、高校生たちに抽選を手伝ってもらいながら、個別の商品や詰め合わせセットを40名にプレゼントした。最後の商品は、5品の詰め合わせだったことから商品紹介の時には会場がどよめくような声が聞こえ、抽選を引くたびに大きな盛り上がりを見せ、終始和やかな中終演を迎えた。



(4) 奄美パーク音楽感謝祭 フェウンメコンサート

ア 開催日時 令和6年12月15日(日) 13:30 ~ 15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約230名 (YouTubeLIVE 視聴者数9名)

エ 内容

季節の移り変わりと新年の訪れを感じるこの時期に奄美群島出身のアーティストを迎え、「奄美パーク音楽感謝祭 フェウンメコンサート」と題して冬の音楽コンサートイベントを毎年開催している。今回は、アマービレ吹奏楽団、アマゴス、坂西唯紀さん、Kitten Blue、森拓斗さんの5組が出演した。

オープニングを飾ったアマービレ吹奏楽団は、冬を連想させる「ラデツキー行進曲」や桑田佳祐の「白い恋人達」など、有名な楽曲をメインにトークも交えながら演奏した。

続いて、「呼ばれればどこへでも」をモットーに名瀬を中心に活動しているゴスペルグループのアマゴスが出演。こちらも冬を連想させる「赤鼻のトナカイ」や洋画で使われていた「Joyful, Joyful」を披露。アカペラも交えた素晴らしい歌声のハーモニーをきかせ、クリスマス感を一気に演出して、会場を盛り上げた。

次に、坂西ユキさんが出演。元ミュージカル俳優の経歴を活かした演技力と歌唱力でプリンセスと魔法のキスの「夢まであとすこし」やリトルマーメイドの「パパのかわいい天使」を歌い上げ、会場の観客を魅了した。

次に、これまでの曲調とは打って変わり、しっとりとした落ち着きのある曲を「Kitten Blue」が披露。観客の中には、穏やかな歌声に眠りに誘われている方もいた。

最後の出演は、日本だけにとどまらず、海外にも旅に出てライブを行っている森拓斗さんが出演。最初に披露した「ホマレ」は、会場全体に訴えかけるような歌声で歌い、3曲目の「イトゥー」は、島唄の「イトゥ」をアップテンポにアレンジし、オリジナルの歌詞を加えた曲で会場を盛り上げた。



(5) 奄美パーク春祭り～サンガツサンチ～

ア 開催日時 令和7年3月2日(日) 13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約350名 (YouTubeLive 聴者数19名)

エ 内容

奄美群島では、旧暦の3月3日に生後初めての節句を迎える女兒の健やかな成長を願う風習があり、季節柄「ひな祭り」をイメージして、女性の歌い手によるコンサートを開催した。

初めに、東京でワンマンライブを成功させたことのある奄美市名瀬出身の友香さんが出演。オリジナル曲3曲をパワフルに歌いあげ、会場を盛り上げた。

続いて、奄美大島出身で、過去に島内の様々な島唄大会で入賞し、現在は、関東を中心に島唄の唄者として、また、舞台女優としても活動している平田まりなさんが登場。オリジナル曲のヨー加那やテンポの良い豊年節などを披露し、観客も唄に合わせて手拍子をとるなどイベントを盛り上げた。

続いて、三味線とアコースティックギターを使いこなし島唄とポップスの二足の草鞋を履いて活動している楠田莉子さんが登場し、春うららを思わせるようなのどかでゆったりと暖かな歌声を披露した。

続いて、過去に「奄美パークわらべシマ唄大会」で各部門ごとに優勝を果たした高校3年生の朝岡歩紀花さんが登場。緊張の面持ちながらも伸びやかで会場に響く歌声で、自身にとって思い入れのある島唄を披露した。

曲の披露が終わると、朝岡さんには奄美パークの様々なイベントに出演していただいたこと、また、この春高校を卒業し、新しい門出を迎えることから、宮崎園長から朝岡さんに向けて感謝とはなむけの気持ちを込めて感謝状と記念品を贈呈した。

最後の出演は、かごしま国体2023のオープニングプログラムで自身が主催する島唄教室のメンバーとともに島唄を披露した徳之島在住の指宿桃子さんが登場。徳之島では「朝花節」の総称として言われている「島朝花」や師匠の安田宝英さんが作った「喜界やよい島」などを披露し、美しい歌声で観客を魅了した。

イベントの締めは唄者全員で六調を演奏し、観客も一緒に踊りながら楽しみ、幕引きとなった。

奄美パーク春祭り
サンガツサンチ

指宿 桃子
平田 まりな
楠田 莉子
友香
朝岡 歩紀花

サンガツサンチ
旧暦の3月3日に生まれて初めての節句を迎える女兒の健康を願い、
神様や先祖にお供え物を献上する風習のこと。

日時：令和7年3月2日(日) 13:30～ 公式HP
場所：奄美の郷 屋内イベント広場
◎小学生以下にひなあられなどをプレゼント！
お問い合わせ：奄美パーク事業課 0997-55-2333



2 わきゃステージ in パーク事業

(1) 民謡民舞少年少女奄美連合大会・奄美シマ唄日本一大会

ア 開催日時 令和6年5月18日(土)

民謡民舞少年少女奄美連合大会 9:30～11:30

奄美シマ唄日本一大会 12:30～17:00

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 405名 (YouTubeLIVE 視聴者数 22名)

エ 内 容

公益財団法人日本民謡協会及び同奄美地区大会実行委員会が主催する本大会は、少年少女の部で8月の全国大会出場をかけた「民謡民舞少年少女奄美連合大会」、来年4月の九州大会出場を目指す「奄美シマ唄日本一大会」の予選会となる。奄美大島、徳之島、喜界島から総勢99名の各島を代表する唄者が一堂に会し、老若男女の幅広い年代の出場者が自慢の唄声で順位を競った。

「民謡民舞少年少女奄美連合大会」は3部門に30名が出場した。小学校低学年の部の優勝者は、あやまる会の原琴子さん、高学年の部の優勝者は、同じくあやまる会の土屋笑鈴さんで、いずれも「奄美パークわらべシマ唄大会」で優勝経験のある実力派が栄冠を手にした。

中学生の部では、昨年度小学生高学年部で優勝した、奄美芸能徳之島会、峰岡朋輝さんが優勝し見事2冠を達成。「喉の調子が悪くて声が出ない日が続いたが、先生や母のサポートのおかげで今日は上手に唄えたから感謝している」と喜んだ。

審査委員長の中島清彦氏は「皆さん礼儀正しく、元気な声ではつらつとしている姿は島の宝だと思っている。この島の宝を全国大会へ連れて行って自慢したい」と大会を講評した。

「奄美シマ唄日本一大会」には、成青年部から高年部まで5部門に67名が出場した。

成青年部では、今年4月の「日本民謡ヤングフェスティバル」で最優秀賞を受賞した時岡優里菜さんが圧巻の歌声で見事優勝を果たし、「奄美パークの舞台上で賞をもらえる唄を歌うことができうれしい」と話した。

厳正な審査の結果、入賞した25名は、来年4月に熊本で行われる民謡民舞九州大会への出場権を勝ち取った。

大会の最後は、瀬戸内会の六調に合わせて出場者や関係者がステージに上がって踊るなど、賑やかな締めくくりとなった。

「民謡民舞少年少女奄美連合大会」優勝者

【小学校低学年の部】原琴子 (あやまる会)

【小学校高学年の部】土屋笑鈴 (あやまる会)

【中学生の部】峰岡朋輝 (奄美芸能徳之島会)

「奄美シマ唄日本一大会」優勝者

【成青年部】時岡優里菜 (北大島会)

【壮年部】福山幸司 (北大島会)

【中年部】上原京子 (瀬戸内会)

【熟年部】嘉川敏子 (瀬戸内会)

【高年部】阿部ミネ子 (瀬戸内会)



(2) 藤扇流奄美本部「秋振る舞」

ア 開催日時 令和6年9月8日(日) 13:30～15:00

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約220名 (YouTubeLIVE 配信なし)

エ 内 容

当イベントは前園恵美子氏が会主を務める日本舞踊藤扇流奄美本部の主催で実施した。演歌歌手・吉幾三の「奄美で待って」で華やかに幕を開けた。続いて、会主藤扇寿晃こと前園恵美子氏が「織田信長」を力強く踊った。

その後は、藤扇寿廣、藤扇寿恵らをはじめ、総勢19名の門下生が10曲を披露。また、賛助出演の「山ゆり会」森山ユリ子氏は、孫の千田真帆さんと奄美民謡「朝花節」「くるだんど節」「嘉徳なべ加那節」の3曲を歌い上げた。二人の伸びのあるきれいな歌声に来場客らは、聴き入っていた。同じく賛助出演のベリーダンサー、バーバロみずき氏がベリーダンスと唄を披露。2組がイベントに花を添えた。

最後は、出演者全員で奄美にちなんで、奄美の四季をイメージした「奄美暦」として、奄美ソングメドレーを披露。にぎやかな曲に合わせて会場からも手拍子が起こるなど会場は大変盛り上がった。フィナーレでは、出演者へ会場から大きな拍手が沸き起こっていた。

来場した約222名の来場客らは、日本舞踊のしなやかな手ぶりや凛々しい踊りに終始真剣に見入っていた。



(3) ディ！まーじん島口でゆらおうディ！

ア 開催日時 令和6年9月21日(土) 13:30～15:00

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約100名 (YouTubeLIVE 視聴者数5名)

エ 内 容

当イベントは、約30年続いている島口継承の活動に取り組んでいる団体、「シマユムタを伝える会」主催で開催した。

同会会長の鈴木るり子氏が、「20年後に『シマユムタ』が無くなってしまわないかと心配されています。『シマユムタ』は島の財産です。今『シマユムタ』を使うことができる方々は、ぜひ一緒に使っていきましょう。今日は、最後までゆっくり見ていってください」と方言で冒頭の挨拶を行った。

初めに、福山幸司さん、安原ナスエさんがシマ唄「朝花節」「俊良主節」を披露。続いて今里信弘さんと孫の鈴木莉央さんの二人が、ゆんきゃぶり(おしゃべり)をした。おじいちゃんが方言で質問し、孫の莉央さんが方言で意味を答えるといった内容で、莉央さんは、小学生ながらおじいちゃんから日頃、学んでいる方言を流暢に話していた。

シマユムタイムでは、会長の鈴木氏が進行を務め、瀬戸内町、宇検村、大和村、笠利町それぞれの方言の聞き比べを行った。同じ奄美大島島内でも地域によってイントネーションや言葉

も違い、来場者は、興味深そうに聴いていた。

今回のメインでもある島口朗読劇では、同会のメンバー 10 名が、有名な童話「七匹の子やぎ」のそれぞれの役に扮し、方言を使って面白可笑しく演じた。会場からは、大きな拍手や笑いが起き、大変盛り上がった。

続いては、福山幸司さん、阿部ミネ子さんとともにシマ唄を披露した。島口漫談では、今里信弘さん、里晃尚さんがカラオケ店での一コマをテーマに、お客さんと店員の掛け合いを披露。手を叩いて笑う人など、終始笑いの絶えない演目となった。

最後は、お決まりの六調で、会場のお客さんも一緒になって唄い踊り、盛り上がる中での終演となった。

万歳三唱では、同会副会長の置幸男さんが「今日のイベントで、シマユムタを伝える会の活動を知ってもらい、これから一緒に応援・活動して行って欲しい」とあいさつしイベントを締めくくった。



(4) 民謡民舞奄美連合大会

ア 開催日時 令和6年11月16日(土) 10:00～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約280名(YouTubeLIVE視聴者数20名)

エ 内容

公益財団法人日本民謡協会及び同奄美地区大会実行委員会が主催する本大会は、日本の伝統文化である民謡民舞を唄い踊ることにより、その保存と普及を目的とするとともに全国大会の予選として開催された。

参加者は、高年部6名、熟年部9名、中年部20名、壮年部25名、成青年部22名の総勢75名が出場し、自慢の歌声を披露して各部門毎に優勝を競い合った。

各部門の優勝決定後、協会賞争奪戦が行われ、各部門の優勝者が協会賞を競って再度歌唱し、成青年部優勝の楠田莉子さんが、圧巻の歌声で見事総合優勝を果たした。

総合優勝の楠田さんを含めた各部門優勝者5名は、来年行われる全国大会への出場が決まり、全国から集結する強者達と競い合うこととなる。過去、全国大会の内閣総理大臣賞争奪戦で準優勝の経験もある楠田さんは「1年準備をして、今度こそはしっかり日本一を目指してやりきりたい」と意気込んでいた。

また、休憩時間には、同委員会徳之島民謡研究会・中島清彦支部長や前年度大会優勝者によるゲストステージもあり、観客はきれいな歌声に聴き入っていた。

大会途中で音響トラブルがあったが、大会関係者の尽力などもあり、トラブルは軽減し、最後まで行うことが出来た。

また、全体の締めとして六調が行われ、出場者、観客全員が踊り、賑やかな幕引きとなった。

「民謡民舞奄美連合大会」優勝者

【総合優勝】楠田 莉子（山ゆり会）

【高年部】阿部 ミネ子（瀬戸内会） 【熟年部】平田 久代（名瀬会）

【中年部】上原 京子（瀬戸内会） 【壮年部】福山 幸司（北大島会）

【成青年部】楠田 莉子（山ゆり会）



(5) 第27回朝花節大会

ア 開催日時 令和6年11月23日（土） 11:00～15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約350名（YouTubeLIVE 配信なし）

エ 内容

本大会は、朝花節をとおして島唄に親んでもらうことにより、島唄の底辺拡大を図るとともに、島唄、島口の継承を目的として、大会実行委員会（事務局：奄美市笠利総合支所）が開催した。

少年の部17名（内未就学児3名）、青年の部6名、壮年の部5名、高年の部11名の総勢39名出場し、各部門毎に最優秀賞を狙い、競い合った。

最初に行われた少年（未就学児）の部では、保育園に通う園児3名が元気いっぱいの歌を披露した。中でも、3人目に登場した蘇蘭子さんは、同じく未就学児の部に出場した姉の菊乃さんと小学生の部に出場した小梅さんに手を引かれ登場し、菊乃さんと手をつないで歌い、小梅さんが囃子を行った。可愛らしい3姉妹での出演に会場からも暖かい拍手や歓声が上がっていたのがとても印象的だった。

少年（小学生）の部では、土谷笑鈴さんが5月に開催した当パーク主催の「わらべシマ唄大会」、わきゃステージ「民謡民舞少年少女奄美連合大会（全国大会予選）」に続き、本大会でも見事優勝し、当パークで開催する島唄大会での3冠となった。

青年の部、壮年の部、高年の部では、22名の出場者が伸びやかな歌声を披露した。

全出場者の歌唱終了後、昨年度青年の部優勝の大島北高校3年の朝岡歩紀花さんがゲストとして出演した。3月には高校を卒業し島を離れると言う朝岡さんは、小さい頃から出演してきた本大会に感謝の気持ちを込め、本大会の課題曲でもある「朝花節」「今の風雲節」「ワイド節」の3曲を披露し、最後のワイド節では、出場者、観客一緒になって踊り大変盛り上がった。

結果発表では、少年の部、青年の部、壮年の部に出場した奈良恵美さんと歩美さん、美佐緒さん親子が、それぞれの部門で奨励賞受賞との発表に会場が大きく沸く中、少年の部・土谷笑鈴さん、青年の部・千田真帆さん、壮年の部・大山由美子さん、高年の部・保晋さんが最優秀賞を勝ち取った。そして、今大会から新設された朝花節大賞には、高年の部最優秀賞の保晋さんが選ばれ見事初の大賞受賞者となり、保さんへこの日一番の拍手と歓声を送られる中、大会は終了した。

「第27回朝花節大会」入賞者

【奨励賞】

- 少年の部：奈良 恵美 ○青年の部：奈良 歩美
○壮年の部：奈良 美佐緒 ○高年の部：牧 純子

【優秀賞】

- 少年の部：久保 心春 ○青年の部：鈴木 明
○壮年の部：武 ちとせ ○高年の部：福山 尚史

【最優秀優勝】

- 少年の部：土谷 笑鈴 ○青年の部：千田 真帆
○壮年の部：大山 由美子 ○高年の部：保 晋

【朝花節大賞】 保 晋（高年の部最優秀賞）



(6) 2024 奄美 美の競演

ア 開催日時 令和6年12月8日（日） 14:00～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約300名（YouTubeLIVE視聴者数6名）

エ 内容

「美の競演」は、和装の文化を広めようと美の競演実行委員会が2004年から開催しており、開催の度に好評を得ている。

開演の滑り出しは、第1回京都と富良野の開催記録の上映を行った。観客は真剣な眼差しで見しており、上映終了後は拍手が鳴り響いた。

次に、初の試みとして、着付けパフォーマンスを行った。ステージ上で、それぞれの着物の産地の情報を交えながら着付けを行い、10分ほどで完了した。終了後は、見とれている観客もあり、拍手が鳴り響いた。

続いて、メインプログラムの、着物ショーを行った。本場奄美大島紬に始まり染大島、訪問着、色留袖など13点の作品を着飾ったモデルたちがランウェイを歩いた。着物姿を見た観客から「わぁ素敵！」や「綺麗」などの感想や感嘆のため息が漏れる様子が見受けられ、携帯やビデオカメラで写真や動画撮影をする方もおり、多くの観客を魅了した。

着物ショーの最後は、モデルたちが曲に合わせて登場し、一同勢ぞろいでの披露となり、色とりどりの着物でステージは華やかでかつ壮観な光景であった。

また、着物ショーの後には「ドラゴンキッズクラブ」の子供たちによるダンスを披露。元気あふれるダンスで、イベントに華を添えた。

イベント終了後は、染大島のトートバックやランチョンマット、掛け軸、そして目玉の着物が当たる抽選会が開催され、当選番号を読み上げるたび会場では、一喜一憂する歓声があがり、大いに盛り上がりを見せた。

実行委員会の平塚事務局長は「ショーをすることで、伝統技術を観客に間近で見せることが

でき、モデルも着る喜びを感じられる。来ていただいた方々の反応も良くうれしかった」と話された。



(7) オモロー授業発表会 in 奄美

ア 開催日時 令和7年3月15日(土) 13:30～16:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約300名 (YouTubeLive 視聴者数12名)

エ 内容

「オモロー授業発表会」は、「夢みる小学校」という映画を見た株式会社ワンピース代表取締役会長の久本和明氏が、「教育の本丸は公立学校である」「地域の小中学校にも、必ず夢見る先生たちがいるはずだ」という想いのもと、2023年に立ち上げた会で、離島では初めての開催となった。

最初は、鈴木侑氏によるシマ唄で、それぞれの曲名の意味や成り立ちを解説しながら披露し、幕を開けた。

次に、8名の先生たちがそれぞれ登壇し、自分がどのような方針を持って子どもたちに教えているか、接しているか、奄美の食を活かした食育の大切さ、子どもたちの意欲を向上させる取り組みなどを約10分間パワーポイントや映像を活用しながら発表した。

その中でも、現在徳之島伊仙町で小学校の教師をしている野元大輔氏の発表の中に子どもたちにかかして「問い」を持ってもらうかというものがあつた。具体的には、些細な疑問に対して単純に答えを教えるのではなく、ヒントを出して子どもたち自身に解決するようにすることで、向上心や失敗を恐れない精神を鍛える・教えるというもので、「たくさん挑戦して失敗を笑いあえる学校」を目指して教育しているとのことであつた。この話を聞いていた観客は、うなずいている方や多数の共感を得ている方も見え、発表後に大きな拍手が送られた。

イベント終盤では、奄美の伝統芸能の八月踊りや六調を観客も含め大きな輪となり楽しく体験してもらい、締めには奄美市の安田市長が閉演のあいさつを行って幕を閉じた。



3 自主企画事業

(1) 奄美の郷ライブステージ

① 風薫る五月 うたと舞のステージ

ア 開催日時 令和6年5月26日(日) 13:30～15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約200名 (YouTubeLIVE 視聴者数6名)

エ 内容

奄美にゆかりのある出演者たちのステージを開催することにより、県内外の観光客等に奄美の情報を発信し、地元の方々との交流を図り、また、出演者に対して、日々の練習の成果を観客の前で発表する機会を提供し、地域の文化活動の継続、発展に寄与することを目的とする「奄美の郷ライブステージ」の今年度の第一弾として開催した。

幕開けを飾ったのは松崎博文さん、泰子さんによるシマ唄で、定番の「朝花」や、あまり歌われることのない「儀志直節」などを豊かな声量で唄いあげた。続いてYasmineさんが、ベリーダンスを下敷きとした創作舞踊を披露。衣装が風に舞うような軽やかな美しいダンスを見せた。日本舞踊仙田流からは3名が出演し、よく知られる歌謡曲に合わせて舞を披露した。中でも御年90歳を超える駒由紀さんは、娘の作まゆみさんの歌に合わせて、情感豊かな舞で観客を魅了していた。ハウオリアイスタジオからは、3名の女性ダンサーが、指先まで神経が行き届いたしなやかな表現でフラダンスを披露した。

ならびや歌謡グループは、代表の和田孝之さんがオリジナルのユーモアソング「ハゲ音頭」をバックダンサー付きで披露した。また、YUKIさんの「君の瞳に恋してる」、岩田幸喜さんの「赤いランプの終列車」などヒット曲のカバーに、来園していた観光客も一緒になって踊ったり手拍子を送ったりと、おおいに盛り上がった。

最後は、松崎さんの演奏で「渡しゃ」「六調」を、出演者と観客の皆で踊り、イベントを締めくくった。



②梅雨空を吹き飛ばせ！歌声パーク

ア 開催日時 令和6年6月23日（日）13：30～15：30

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約200名（YouTubeLIVE 視聴者数14名）

エ 内 容

梅雨明けも近い夏の始まりを予感させる時期に、ポップスなど観客と共に盛り上がるような歌をテーマにステージイベントを開催した。

トップバッターを飾ったのは、主にアコースティックギターの弾き語りで活動している坂上友香さんと特徴的な形の電子カホンを使うユースクさんの二人のユニットで、ゆったり優しい歌声を観客に届けた。

続いての登場は、海外でも音楽活動や俳優などの活動をしていたDrany（ドラニー）さんが出演。プロフィールにあった、しっとりとした独特な“大人チル”の世界観を歌声によって披露した。

続いて、地元節田で音楽活動している浜崎誠也さんが出演。知人たちの声援が飛ぶ中、これから夏本番への期待を掻き立てるようなアップテンポな曲調に乗せた歌声を披露し、会場を沸かせた。

続いて、約20年もの間、島唄を学んできており、アコースティックギターを始め今年で10年目を迎える楠田莉子さんが出演。普段の島唄を披露する時の雰囲気とは異なり、明るく、軽やかな歌声で歌い上げ、終盤の2曲は、朝光介さんが共演し、口で打楽器などの音を表現するヒューマンビートボックスでパーカッションを行い、2人のセッションを披露した。

最後の出演者は、奄美の笠利出身で2人組音楽ユニット・カサリンチュ（現在休止中）としてメジャーデビューも果たしている、朝光介さん。冒頭の歌い出しから、アドリブを入れ、観客を盛り上げつつ、近くにいた子どもたちとも掛け合いなどを行い、慣れた様子でMCも行っていった。最後の曲を歌い上げた後に、ヒューマンビートボックスを披露し、バスドラムやスネアなどの打楽器音だけでなく、パトカーのサイレンなども口だけで表現し、ヒューマンビートボックスの魅力を披露して、終演となった。

今回のイベントは、「梅雨空を吹き飛ばせ！」とあるように、イベント当日に梅雨明け宣言がなされたことからタイトルにピッタリなイベントとして開催することが出来た。



③なちかしゃ 昭和歌謡祭

ア 開催日時 令和6年9月15日(日) 13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約400名(YouTubeLIVE視聴者数10名)

エ 内容

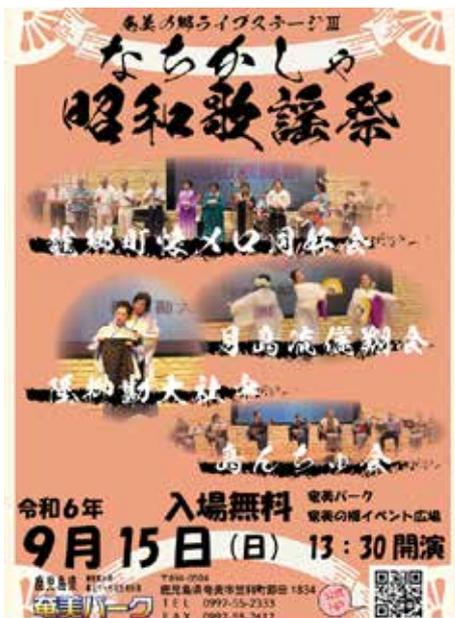
敬老の日が近いことにちなんで、島唄や舞踊、歌謡曲など「なちかしゃ(シマの方言で“懐かしい”の意味)」をテーマとしたステージを2部に分け開催し、島で活動する4団体が出演した。

1部のトップバッターを飾ったのは、隆柳勘大社中の皆さん。5名が舞台上で舞踊を披露し、息の合った舞を披露した。

次に、島んちゅ会の福山幸司さんと益山由美子さんが出演。島唄と言えどおなじみの「朝花節」や「徳之島節」など3曲を披露した。また、最後の「すべての人の心に花を」は、CDの音源と三味線の音色を組み合わせ演奏を行い、島唄で培った伸びやかな歌声を会場に響かせた。

次に、16年前に龍郷町の公民館講座として発足され、今では年配の方々からの支持を得ている「龍郷町懐メロ同好会」の皆さんが出演。最初に「函館の女」を披露した前島さんは、年齢を感じさせないほど迫力のある歌声を披露し、冒頭から観客を沸かせた。1部と2部との間に休憩を挟みつつも、9人で18曲もの歌謡曲を2部前半まで披露し、終始盛り上がりを見せた。続いて、4団体目に、2017年から活動している「月島流儷翔会」が出演。「忘却」という演目では、白く透き通るような羽衣を舞踊の一部として用いり、優雅に舞い、観客を魅了した。

そして、大トリとして、「隆柳勘大社中」が再度出演。「GO!GO! たつGO!!」のアップテンポな曲調に観客も体を揺らしながら手拍子を鳴らし、会場全体が一体感に包まれながら幕を閉じた。イベント当日は、台風明けだったにもかかわらず、年配の方々に人気のある演目であったことが功を奏し、多くの観客に来場していただいた。



④奄美パーク新春歌謡祭～懐かしの昭和歌謡，島唄，奄美歌謡まで～

ア 開催日時 令和7年1月26日（日）13：30～15：30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約250名（YouTubeLIVE 視聴者数9名）

エ 内容

1月開催ということから「新春歌謡祭」と題し，島唄やご当地ソングとして根強い人気のある奄美歌謡を中心としたコンサートを開催し，地元奄美大島で活躍する10組が出演した。

オープニングを飾ったのは，あやまる会で，平田まりなさんと教室に通う生徒10名が，島唄を披露した。「朝花節」から始まり，「上がれ世ぬ春加那」，手遊び唄の「うんにやだる」，「ワイド節」を歌唱。4歳から中学生の子どもたちが本格的な唄声や可愛らしい手遊び唄，アップテンポな曲を披露し，新春イベントに相応しいにぎやかな幕開けとなった。

続いて登場のしいちゃんは，初めに自身が母親を思い作った「おかあさん」を2曲目は司会の中島章さんと二人で新民謡「月の白浜」を披露した。「おかあさん」では，感極まって声を詰まらせる部分があり，観客も真剣に聞き入っていた。続いて福永則雄さんが，デビュー曲の「お前と故郷で」と新民謡の「島ちいもれ」の2曲を歌唱。「パークでの出演は3年ぶり」と話す福永さんは，久しぶりの奄美パークでのステージを楽しんでいるように力強く歌い上げ，会場からも大きな拍手が起こっていた。

令和5年の奄美歌謡選手権大会で，最優秀賞を受賞した経歴をもつ，川口真知子さんは，デビュー曲「あした夢見て」と「思い出の喜界島」の2曲を歌い，伸びのある優しい歌声で観客を魅了した。

続いては，司会の中島さんの生徒，内田やよ子さん，村田新一郎さん，永田順子さん，柳希久代さんの4名がそれぞれ一曲ずつ歌声を披露。応援に駆け付けたご家族や友人に手を振りながら，楽しそうに歌う姿がとても印象的であった。

その後は，川口真知子さん，しいちゃん，福永則雄さんが再度出演し，それぞれ2曲ずつ歌唱。福永則雄さんの「七月の雨」では，奥様が所属する日本舞踊，一条流奄美本部の3名も出演し，艶やかな踊りでステージに華を添えた。

ステージの最後は，この日司会を務めた中島章さんのオンステージ。「農村小唄」や「函館の女」，「加賀の女」，「薩摩の女」，「奄美の女」と題名に「女（ひと）」のつく唄のメドレーを披露した。専属のあきらダンサーズを従え，メドレー他4曲を熱唱し，最後の「好きになった人」では，観客も手拍子をしながら，一緒に口ずさみこの日一番の盛り上がりとなった。歌唱後には，お孫さんからプレゼントのサプライズもあり，観客からは，温かい拍手が送られた。

開演1時間ほど前から来られていた方もおり，多くの観客で終始盛り上がった。来場者からは，「懐かしい昭和歌謡や新民謡に当時を思い出しながら一緒に口ずさみ，楽しい時間を過ごせた」といった感想も聞かれた。



⑤奄美パーク パフォーマンスバトル

ア 開催日時 令和7年2月23日(日) 13:30～15:30

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約300名(YouTubeLive 視聴者数12名)

エ 内 容

日頃から様々なジャンルの特技を練習している方々に練習の成果を披露する機会を提供し、観客にもそのパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的に開催した。

今回は、奄美大島島内の地元笠利から、遠くは瀬戸内町加計呂麻島まで9組の応募があり、総勢62名の出場者が、ダンスやエイサー、コント、新体操等、多彩なジャンルのパフォーマンスを披露した。

順位は、来場した観客が各出場者の演技を5点満点で採点し、その合計得点で決定する採点方式で行い、来場した観客は1組1組真剣に採点していた。

採点の結果、優勝者は瀬戸内町から出場の「SHOKO STUDIO」で、今大会の為に選抜で結成されたメンバー9名で、全出場者のトリとして、息の合った大人顔負けの力強いダンスを披露し、会場を沸かせた。

結果発表で名前を呼ばれた瞬間は、喜びを爆発させた。会場からも盛大な拍手と歓声が送られ、インタビューでは「本当に優勝できてうれしい」と話した。

2位は「AMAMI.GYM.ART.CLUB 山下先生」で、体操を始めたきっかけなど、自身の体験をアクロバットな体操を交えながら紹介し、観客へ挑戦することの大切さや勇気を伝えた。13脚のパイプ椅子をピラミッド状に積み上げ、その上で逆立ちをするという最後の演技では、観客が心配そうに見つめる中5段に積みあがったパイプ椅子の上で、見事に逆立ちを成功させ会場からも大きな拍手が送られた。

3位は「大島高校新体操部・大島新体操クラブ」で、はじめて合同での演技にチャレンジしたという同チームは、新体操を駆使したダンスや新体操ならではのリボンやフープを使った演技を披露した。全身を使ったしなやかで規律正しい新体操の演技に会場の観客も魅了された。

惜しくも入賞とはならなかった、「Amami Rabbits (ダンス)」「加計呂麻エイサー (エイサー)」「奄美笑劇場 (コント)」「YANNY KIDS DANCE (ダンス)」「北岡紫陽子 (ダンス)」「湯田美琴 (ダンス)」といった出場者もそれぞれ特色あるパフォーマンスや個性的な衣装で会場を盛り上げた。

また、司会を務めた渡陽子氏も出場者や会場の観客からのインタビューなどを交えながらの進行で、観客を大いに楽しませた。

開演前から多くの来場があり、観客からは、「とても面白い催しだね」「すごくよかった」などといった声も聞かれた。

Amami Park Performance Battle 2025.2.23
13:30～奄美の郷 入場無料
奄美の郷 屋内イベント広場

【出場者】
大島高校新体操部・大島新体操クラブ (奄美市名瀬)
SHOKO STUDIO (瀬戸内町)
北岡 紫陽子 (瀬戸内町)
加計呂麻エイサー (瀬戸内町)
奄美笑劇場 (奄美市笠利)
Amami Rabbits (奄美市笠利)
AMAMI.GYM.ART.CLUB 山下先生 (奄美市名瀬)
YANNY KIDS DANCE (奄美市笠利)
湯田 美琴 (奄美市名瀬)

順位決定方法
観客が、ステージ上でそれぞれのパフォーマンスを鑑賞し、5点満点で採点を行います。
※ 最終順位はYouTubeLiveにて公開し、本報に掲載いたします。採点終了後、各組の順位を告知いたします。
※ すべての出場者の出場料を、事前に各組の代表者に、現金・振替・3日後に支払います。

お問い合わせ 0994-2504 奄美の郷 奄美市笠利町1834
鹿児島県あまみパーク 0997-55-2333



(2) 第18回奄美パークわらベシマ唄大会

ア 開催日時 令和6年5月5日(日・祝)

午前の部 10:00 ~ 11:30, 午後の部 13:00 ~ 15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約600名 (YouTubeLive 視聴者数19名)

エ 内容

「奄美パークわらベシマ唄大会」は、奄美の将来を担う子どもたちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深め、シマ唄文化を広く後世に伝える機会となることを目的として毎年開催している。本大会には島内から32名の小中学生が参加し、小学生低学年の部に9名、小学生高学年の部に13名、中学生の部に10名が出場し、自慢の歌声を競い合った。

小学生低学年の部では「黒だんど節」を歌った蘇小梅さん、同高学年の部では「よいすら節」を歌った土谷笑鈴さん、中学生の部では「嘉徳なべ加那節」を歌った津畑杏朱さんが伸びやかな見事な歌声を披露し、優勝を勝ち取った。また、優勝した3名以外の入賞者及び他の出場者も緊張しながらも堂々とした歌声を披露した。

中学生の部終了後は、前年度の各部門優勝者として、小学生低学年の部 原琴子さん、小学生高学年の部 原美波さん、中学生の部 奥野乃佳さんが出演し、それぞれ2曲ずつ唄い本大会に花を添えた。

表彰式では、宮崎園長による受賞者への表彰を行い、賞状を渡す際には、それぞれの受賞者へ「おめでとう」などの声をかけ、会場からは入賞した出場者を称える盛大な拍手が送られた。

締めくくりには、本大会の審査員長を務めた山元眞琴審査委員長が講評を行い、「島唄は、今や日本を代表する一つの文化に発展している。これからも誇りと自信を持ち、シマ唄の勉強をして欲しい」と出場者を激励した。

小学生低学年の部

優勝 蘇 小梅 (赤徳小学校2年)



準優勝 瀬本 えま (古仁屋小学校3年)



第3位 石川 諺衣 (宇宿小学校3年)



小学生高学年の部

優勝 土谷 笑鈴 (朝日小学校5年)



準優勝 奈良 恵美 (笠利小学校5年)



第3位 泉 璃音 (朝日小学校5年)



中学生の部

優勝 津畑 杏朱 (名瀬中学校2年)



準優勝 鼎 沙羅 (古仁屋中学校3年)



第3位 泉 奏音 (笠利中学校3年)



(3) 奄美パーク わくわく遊び広場

ア 開催日時 令和6年9月29日(日) 10:00～15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約550名

エ 内容

本イベントは、地元の親子連れなどの来園客に様々な遊びの体験ができる場を設け、地域の人々との交流や奄美パークの利用促進を図ることを目的として開催した。

屋内イベント広場では、「スーパーボールすくい」や「お菓子釣り」、「ストラックアウトゲーム」、「バスケットボールシュートゲーム」、「輪投げ」、「市町村公式キャラクターぬりえ」の6種類の遊びやゲームを実施した。また、午前の部では、「むかし遊び体験」を実施し、奄美手熟師会のメンバー指導のもと、「神の目作り」「輪ゴム鉄砲作り」「フォトフレーム作り」「風車・紙飛行機発射台作り」の4つの遊び体験を行った。どの遊びもとても人気があり、中でもフォトフレーム作りは、すぐに用意した材料が無くなっていった。

また、今回初めてとなった「市町村公式キャラクターぬりえコーナー」では、奄美パーク公式キャラクター「ぱーくま」に加え、大島郡内8市町村の公式キャラクターのぬりえを用意した。やはり、「ぱーくま」は人気が高く、用意した用紙が在庫切れになってしまうほどであった。市町村キャラクターについても、見本を見ながらたくさんのお子たちが楽しそうに取り組んでいた。ぬりえに参加した子どもは、「一番かわいかったからこれにした」「これは、おかあさんの分」といろいろな市町村のキャラクターを楽しそうに選び保護者も一緒にぬりえを楽しんでいた。保護者からは「こんなにいろんなキャラクターがあるのは知らなかった」などの感想もあり、自分たちの町以外のキャラクターに関心を寄せていた。

午後からは、奄美警察署、笠利消防分署に協力をいただき、こちらも初めての実施となった「はたらく車展示会」を出会いの広場前で実施した。消防車やパトカーを早く見たいと、午後の部開始前から、たくさんの方が集まっており、開始と同時に多くの子どもたちが車両の周りに集まった。特に救急車とパトカーが人気のようで、午後の部開始から終了まで絶え間なく順番待ちの行列ができるほどの人気であった。



(4) 奄美パーク ハロウィンイベント

ア 開催日時 令和6年10月27日(日) 10:00~12:00, 13:00~15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約830名

エ 内容

奄美パークの利用促進や、地域の人々の交流に貢献することを目的に、毎年恒例のイベントとして好評を得ている「ハロウィンイベント」を開催した。

バルーン等でハロウィンの雰囲気満載に装飾したイベント広場には、ゲームや塗り絵が楽しめるコーナーを5か所配置し、ステージ上には写真撮影ブースを設け、古民家は「おばけ屋敷」に改造した。

当日は、開始直後から思い思いの仮装をした親子連れが続々と来場し、ゲームや写真撮影を楽しんだ。

「ぱーくま探しハロウィン版」は、ハロウィン仕様のぱーくまのイラストを、アイランドインフォメーションの各所に貼り付け、全て見つけた子どもにはお菓子をプレゼントした。

定番のゲームにハロウィンの要素を加えた「魔女っこ帽子わなげ」「ミイラ作り競争」「目玉移し競争」「絵合わせBOX」は、参加者同士でも競い合っていて楽しんでいた。

「おばけ屋敷」は、雨戸を閉め暗くした空間の中に、おばけの電飾が揺れ、等身大の骸骨の人形が浮かび上がるようにした。時折、職員が大きな音を立てておどかすと、子どもたちは怖がりつつも楽しんでいた。

また、事前の10月12日(土)から、写真撮影ブースをアイランドインフォメーションの一角に設け、当日に向けて雰囲気盛り上げたところ、観光客からも好評で写真撮影を楽しむ姿が見られた。



(5) 奄美パーク文化講演会「2024年の言葉を振り返る」 講師：やくみつる氏

ア 開催日時 令和6年11月4日(月・振休)13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約180名(YouTubeLIVE視聴者数4名)

エ 内容

毎年、各界の著名人や文化人を招き文化講演会を開催しているところだが、今年度は漫画家の「やくみつる」氏を講師に迎え、自身が選考委員を務める新語・流行語大賞にちなみ、「2024年の言葉を振り返る」の演題で今年を振り返りながら講演をいただいた。

当日は、開演前から半数近くの客席が埋まっており、テレビや雑誌などのメディアで活躍されている「全国区「やくみつる」」の知名度の高さをうかがえた。

今回は、新語・流行語大賞に係る言葉をメインに講話をいただいた。

講演では、冒頭、各委員は1年分の言葉を溜めておき、その年流行した言葉をそれぞれ推薦し、出揃った中から30語をノミネート、その中から大賞を決めるまでの1年間の経緯を説明。言葉の好き好きや言葉を発した個人への思いから感情が入ることもあるなどの裏話も聞いた。また、この賞は世間で流行った、楽しい・嬉しい・明るい内容の言葉だけでなく、特にマスメディア等で報道された「戦争」や「拉致」などその年の日本や世界情勢を反映したマイナスな要素を持った言葉も入ってくる話や当時は珍しい言葉でも現在では当たり前のように使われていることなど、時代の背景が思い浮かび、言葉の持つ魅力を改めて感じると語っていた。同時に当時はOKでも現在ではNGに該当する差別用語に当たるものなどがあり、審査側も細心の注意が必要になったとの苦労話に来場者もうなずきながら耳を傾けていた。

講演中盤からは、過去に遡り現在でも記憶に残っているワードを当時の選考会の様子を回顧しながら話され、最後は今年やく氏が候補とする10の言葉を紹介した。

折しも、当講演会の翌日が今年度の当賞のノミネート30語が発表されるとのことで、当講演会は正に演題に則したものとなり、心なしか自分たちだけの特別感を来場者全員で共有した。

講演後は、児童を対象にやく氏による「即席似顔絵教室」も開催した。参加した児童は10名。顔の描き方について、自身のアシスタントをモデルにパーツ毎に解説し、児童は真剣に描写に取りかかった。出来上がった「似顔絵」はステージ上で披露し、来場者から大きな拍手が贈られていた。

参加した児童からは、「楽しかった」、「説明が分かり易かった」、「家に帰ったらさっそく家族の似顔絵を描きたい」などの感想があった。

児童たちの似顔絵は、講演会の様子の写真とともに来園者に楽しんでいただくため、奄美パークで約2週間展示させてもらった。

令和6年度奄美パーク文化講演会

【演題】
2024年の言葉を振り返る

2024年
11月4日(月・振休)13:30～
会場:奄美パーク(奄美の郷イベント広場)
入場無料

●児童を対象にやくみつる先生による「即席似顔絵教室」の実技体験も実施します。

【講師プロフィール】
本名 島田 隆博(ノベケヤマ ヒデキ)
出身地 東京都世田谷区
生年月日 1968年3月12日
職業 脚本家、社会評論家、俳優、シンジケート代表理事、演劇家、小説家、漫画家、講演者、講師、作家、シンジケート代表理事、日本放送協会委員、日本放送協会委員、早大演劇研究員

※コメント
奄美大島出身 元里山園(明千里ノ補綴方)とは家訓くもめで親交

【お問い合わせ】
鹿児島県奄美パーク 奄美市笠利町郡田1894
TEL:0997-55-2333
FAX:0997-55-2812

【講師:やくみつる氏】



(6) 第18回 奄美パーク 子どもクリスマス会

ア 開催日時 令和6年12月22日(日) 13:30～15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約800名 (YouTubeLIVE 視聴者数16人)

エ 内容

毎年恒例となっているクリスマスイベントで、今年度もレクリエーション等のステージイベントと島内企業からの協賛品等によるクリスマスプレゼントの抽選会を行った。

ステージイベントは、奄美看護福祉専門学校かいご・福祉学科の生徒12名によるレクリエーションで幕を開けた。保育士や介護士を目指している学生たちの明るく元気な歌や掛け声に合わせて、アンパンマンの曲「サンサンたいそう」やクリスマスの定番曲「あわてんぼうのサンタクロース」などのクリスマスソングを子どもたちも楽しそうに歌ったり体を動かしたりしていた。ステージ最後は、会場の子どもたちもステージに上がって学生と一緒に「赤鼻のトナカイ」を歌い、会場は、大いに盛り上がった。歌の後には、ステージ上で記念撮影を行い、会場の保護者も笑顔で写真を撮っていた。

続いて、ティダスポーツクラブ新体操教室に通う4才児から小学6年生までの子どもたちが、新体操パフォーマンスを披露。未就学や低学年の子どもたちによるかわいらしいパフォーマンスから高学年の子どもたちの本格的なパフォーマンスまで、日頃の練習の成果を発揮していた。出演した4才の女の子からは、「緊張したけど、楽しかった」といった感想が聞かれた。

ステージイベントの最後は、プロマジシャン Mr. オオサコによる、クリスマスマジックショー。マジック歴50年の元小学校長で、現在は、鹿児島市レクリエーション協会長も務めている。自身の教員時代の経験を生かし、会場の子どもたちと楽しく掛け合いをしながらの手に子どもたちは、目を輝かせながら楽しんでいた。ショーの最中は、保護者からも「お～」 「なんで？」といった声が聞こえてくるほど、多くの観客が、夢中になって見入っていた。最後に披露したテーブルが宙に浮くマジックでは、会場の観客からも大きな拍手が沸き起こっていた。

ステージイベント終了後は、たくさんの子どもたちが楽しみにしているクリスマスプレゼント抽選会の当選者発表を行った。抽選は、WEBでの事前申込制とし、今年は、昨年を上回る1,990件の応募があった。今年も島内企業24社から総数200の協賛品をご提供いただき、当パークが用意したプレゼントと合わせて251件分の当選者を発表した。会場へ来園した家族らは、持参した抽選応募チケットを片手にドキドキしながら、当選番号を探している様子であった。

プレゼント引換えの期間は、1月10日(日)までとし、当選した子どもたちは、家族で引き替えに来園し、パーク内を見学する姿も見られた。



(7) 奄美パーク 初春唄あしび

ア 開催日時 令和7年1月4日(日) 13:30 ~ 15:30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約230名 (YouTubeLIVE 視聴者数24名)

エ 内容

「唄あしび」とは、三味線に合わせて座の人々が次々と即興で唄を出し合い、掛け合いながら唄う奄美の伝統文化である。

この伝統にちなんで、島唄をはじめとする、さまざまな唄や舞踊で、お正月らしい華やかなステージイベントを開催、山ゆり会の代表、森山ユリ子さんによる祝い唄「長朝花節」で幕を開けた。

続いて、藤扇流奄美本部の皆さんによる日本舞踊が披露された。最初に代表の前園恵美子さんが年始にふさわしい「祝舞 松竹梅づくし」を舞い、教室の皆さんで「奄美月夜」や「晴れ晴れ音頭」などを華やかに踊った。

次に、地元歌手のならばや和田さんがオリジナルの奄美歌謡を披露した。代表曲の「ハゲー音頭」ではバックダンサーが賑やかに登場し、楽しい振り付けで会場を盛り上げた。

続いて、シンガーソングライターの村山辰浩さんが登場。地元笠利町で製糖の仕事をしているが音楽活動も続けている村山さんは「奄美で生まれ育ち、普通の生活から生まれる歌を届けたい」と思いを語り、「おべんとう」など共感を呼ぶ歌詞のオリジナル曲を優しい歌声で届けた。

続いて、山ゆり会のメンバーによる島唄の披露が行われた。千田真帆さん、楠田莉子さん、森永あすかさんといった若手実力派の唄者たちが、大島紬に身を包み、それぞれに伸びやかな唄声を響かせた。

最後に、奄美パークのボランティア組織・奄美パーク応援隊の有志11名による三味線の合奏で「六調」を演奏し、出演者や来場者で賑やかに歌い踊り、閉幕となった。

出演
山ゆり会
藤扇流 奄美本部
和田孝之
村山辰浩
奄美パーク応援隊

奄美パーク
初春唄あしび
令和7年
入場無料

明あしびとは
奄美の青年からの「遊び」。
座の人々が三味線に合わせて
次々と唄い合いながら唄
うこと、即興で歌詞を作る
こと。

令和7年
1月4日(土) 13:30開演
奄美パーク 奄美の郷イベント広場

鹿児島県 奄美市笠利町 1834
TEL 0997-55-2333
FAX 0997-55-2612



(8) 奄美パーク新春寄席・出張寄席

ア 開催日時・場所

令和7年1月11日(土) 18:30～20:00(徳之島町文化会館)

令和7年1月12日(日) 13:30～15:00(奄美の郷 屋内イベント広場)

イ 入場者数

令和7年1月11日(土) 約140名

令和7年1月12日(日) 約170名(YouTubeLive 視聴者数6名)

ウ 内 容

当イベントは、普段、本物の落語や奇術などの演芸に触れる機会が少ない奄美群島の方々や帰省客等に落語などを楽しんでいただくことを目的に、新春恒例のイベントとして開催した。

今年の寄席は、1月11日(土)の徳之島町と12日(日)の奄美パークの2会場で実施し、落語家真打の三遊亭鬼丸師匠、林家木久蔵師匠、芸人のストレート松浦氏の3名が出演した。

徳之島町公演の第一席目は、三遊亭鬼丸師匠が登場。落語の楽しみ方についての小噺や桃太郎などの昔話を交えながら、「目薬」という目を患った夫が目薬の使用法を読み間違え、妻にお尻を出させて大きな尻を出す噺を披露した。また、第四席目にも再度出演し、自分が浮気されていることに気づかない「紙入れ」という演目を披露した。

続いて、林家木久蔵師匠が登場し、徳之島の観光地「犬の門蓋(いんのじょうふた)」を話題にあげた小噺で観客の心を掴みつつ、「時そば」という話を披露した。両演目の登場人物の心情も細やかに表現し、物語の展開の面白さも相まって会場から笑いが巻き起こっていた。

林家木久蔵師匠の演目後にジャグラーのストレート松浦氏が登場。ジャグリングの他に中国ゴマや皿回しを披露。観客に対して、冗談を交えながらのトークもあり、皿回しでは、棒を徐々に伸ばしながらバランスをとっていく様に会場は盛り上がりを見せた。

1月12日(日)の奄美パークでの公演では、開演前から多くの方が来場し、賑わった。

第一席目は、三遊亭鬼丸師匠が登場した。自身の名前の経緯を冗談交じりのように話しながら、「権助魚」という毎晩どこかに出かけていく旦那を怪しんだ奥様が、飯炊きの権助に後をつけろと命じる話を披露した。また、第四席目にも登場し、人情噺の「井戸の茶碗」という演目を披露した。

続いて、林家木久蔵師匠が登場し、徳之島でも話した犬の門蓋や新たに大島紬村などその土地にまつわる話で観客の心を掴み、「親子酒」という親子で酒を断つ噺を披露した。

ストレート松浦氏は、徳之島町公演と同じ演目披露。デビルスティックという棒を使い、まるでカラーコーン自身が浮いているような芸を披露し、観客席からは「おお～!」といった驚くような声や拍手をする様子が見られた。

今年は、奄美パークの他、徳之島町で出張寄席を実施し、教育委員会との共催によるイベントとなった。徳之島町の広報紙や町内放送などの尽力いただき、例年より多くの観客を来館させることができ、無事、公演を終えることができた。



第4 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関連作家による企画展

(1) きょうだい展

ア 開催期間 令和6年7月6日(土)～15日(月・祝)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 1,467名

エ 内容

奄美に生まれ育ったきょうだいたちの作品を展示することを通して、奄美の自然や文化の素晴らしさを伝えるとともに、それを守り継いでいくことの大切さを地域の方や子どもたちへ啓発することで、奄美の観光振興や情操教育に寄与することを目的に、一般社団法人 Amami しま作捌線を事業主体として開催された。

奄美大島(笠利)で生まれ育った「きょうだい」男女4名が、それぞれの人生で生み出した油絵や日本画、アクリル絵画、染め物などの作品約60点を展示した企画展。きょうだい一人一人の感性が光る作品に加え、きょうだいの子や孫達の作品も一部展示され、会場に花を添えた。奄美の自然や文化の魅力、きょうだいたちの人生の歩みや喜びを、個性溢れる作品を通して発信し、家族で脈々と受け継がれている芸術活動への親しみや感性が来場者を魅了した。

来場者からは、「素晴らしい!奄美にこのようなご一家が!本当に感動しました。奄美のみんなにこれからも、元気を下さい」「兄弟それぞれの個性が出ていてすばらしかった」「素敵な機会をありがとうございます。他の作品も見たいです」「一品一品に味があり、見入ってしまいました。子どもさんや孫ちゃんたちも才能を受け継いでいるのですね。これからも益々期待いたします」「それぞれの個性ある絵の色の使い方や、タッチが素敵でした。これからも素敵な作品を描いてください」など感想をいただいた。



(2) 奄美カメラ部写真展

ア 開催期間 令和6年8月10日(土)～25日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 2,543名

エ 内容

奄美大島内外の写真家がそれぞれの視点で撮影した景色・人物・生物等の質の高い写真作品を通して島内外の方や子供達へ奄美大島の新たな一面を提示し、島内の若手写真家を発掘し、写真芸術の技術・意識を啓発することで、奄美の観光振興や子どもたちへの情操教育に寄与することを目的に、奄美カメラ部を事業主体として開催された。

これまで出会ってこなかった13名が“奄美カメラ部”の名のもとに初めて集結し、それぞれの視点で切り撮られた“奄美”の写真約70点を展示した企画展。一人一人の感性が光るA2サイズのパネル作品に加え、フォトアルバムなどの手に取って閲覧できる作品や、高画質の動画作品も一部展示された。

会期初日に行われたギャラリートークは、司会者や来場者からの質問に出品者が答える記者会見形式と、各自の作品の前で作品について解説するフリートークの2形式で行われ、参加者から多くの質問が寄せられていた。また、出席できなかった出品者からのビデオレターも上映された。

夏休み期間で平日の来館者も多く、地元の方はもちろん、観光で訪れた方々も様々な奄美を楽しむことができ、喜ばれていた。来場者からは、「どの作品も心を惹きつけられる写真ばかりで、見に来てよかったです」「こんな写真を撮りたいなと思う作品がありました。カメラもっと勉強します」「それぞれの写真家さんたちの眼から見た世界をお裾分けして頂き、感動しました。またこんな企画があれば、ぜひ見に来たいと思います」「2ヶ月前から写真を始めました。皆さんの写真はどれもキレイで伝えたいことがはっきり伝わりました。モチベーションがあがりました」「鳥肌が立ちました！小さなマクロの世界、岩も石も植物も、その呼吸さえ感じる写真たちでした」など感想をいただいた。

○関連イベント

ギャラリートーク 令和6年8月10日(土) 14:00～15:00 来場者38名



(3) 第3回 奄美の星空 写真・アート展

ア 開催期間 令和7年2月8日（土）～24日（月・祝）

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 3,170名

エ 内容

奄美の星空フォトジャーナリストの荒木マサヒロ氏、カニアーティストのアオキサトミ氏、月の点描師のNAMI氏、色彩と歌のアーティストのPINsoup氏の作家4名による、「奄美の星空」をテーマにしたグループ展を開催した。

3回目となった本展覧会だが、今回は最終回とのことで、過去の2回で展示した作品をブラッシュアップさせた作品など、過去の展覧会を振り返りつつ、作家それぞれがイメージする奄美の星空を絵画や写真、工芸で表現し、来場者を魅了した。

会期初日には、「エフエムたつごう」でパーソナリティを務める西桂吾氏を司会に迎えてギャラリートークが実施され、作品に込められた作家の思いを直接聞くことができる、貴重な機会となった。

また、来館者からは「色々な絵や写真があり、心が洗われました。星空の写真が素晴らしい。今後も頑張ってください」「心が豊かになった気がします。脱皮します」「すばらしかったです。ますますのご活躍をお祈り申し上げます」と感想をいただいた。

○ギャラリートーク（田中一村記念美術館 企画展示室）

令和7年2月8日（土）11:00～ 参加者31名



(4) 奄美へ

ア 開催期間 令和7年3月1日(土)～23日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 4,679名

エ 内容

奄美の風土にインスピレーションを得た芸術作品や写真を展示することを通して、芸術の素晴らしさを伝えるとともに、奄美独自の風土を守り継いでいくことの大切さを地域の方や子どもたちへ啓発することで、奄美の観光振興や子どもたちへの情操教育に寄与することを目的として開催された。

2022年に当館で開催した「8人のモノトーン」展のメンバー、伊藤昌代氏、長見有方氏、古賀亜希子氏、鈴木純子氏、田島木綿氏、畠理弘氏の6名の作家が新作を携え再び奄美に集結し、写真やテキスタイル、染織、現代美術など、それぞれの表現方法で、奄美の光と風に触発された個性豊かな作品、39点を展示した。

会場には大作の油絵の他、奄美の海岸に漂着したプラスチックなどを材料とした魚型の立体アートや島でなじみのある文字やイラスト入りの段ボールで制作された郵便ポスト、「奄美」を捉えたモノクロ写真などが並び、来場者を魅了した。

来館者からは、「段ボールで作られたポストの再現力に驚きました」「モノクロ写真も、実際奄美に住んでいるのですが、また違った景色を見ることができました」「写真のような絵がたくさんあって驚いた」と感想をいただいた。



2 第70回記念 県美展 奄美関連作家展

ア 開催期間 令和6年6月15日(土)～6月30日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 1,561名

エ 内容

県美展は、県内の美術文化の振興を目指して昭和29年の第1回展開催から、半世紀を越えて春の総合芸術展として広く親しまれ、奄美群島からも多くの作家が作品を出品している。

今年で第70回を迎えた県美展において入賞、入選した奄美群島在住の作家の作品を一堂に集めて展示することで、島内外の美術愛好家に作品のすばらしさを紹介するとともに、奄美群島の芸術発展に寄与することを目的として開催し、入賞・入選した奄美関連作家の、洋画8点、日本画1点、彫刻1点、工芸1点、デザイン1点、写真9点を展示した。

また、田中一村記念美術館賞を受賞した鹿児島市の遠矢佳代子氏の洋画『片陰に』も出品していただき、合計22点の作品を展示した。

6月15日(土)のギャラリートークでは、鹿児島県美術協会会員の稲光政氏と、久保井博彦氏による作品解説に加え、出品した作家数名が自らの作品の解説を行った。

今年度は、全体の作品数は少なかったが、すずきあけみ氏の鹿児島市立美術館賞受賞作品の洋画『I LOVE AMAMI “旅立て！2羽のうみう”』や、奨励賞受賞作品など、レベルの高い作品が並んだ。

来館者からは、「細部までしっかり描きこんだ作品に感銘を受けた」「県美展は鹿児島市まで行かないといけないので、奄美関連の作品だけでも見ることができてよかった」「作品として一つにまとめられているところがやっぱりすごいなと思った」等の感想をいただいた。

○関連イベント

ギャラリートーク 令和6年6月15日(土) 14:00～15:00 来場者数 35名

第70回記念 県美展
奄美関連作家展

洋画 日本画 彫刻 工芸 デザイン 写真

令和6年
6月15日(土) - 6月30日(日)

鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館
企画展示室

開催時間 9:00-18:00
休館日 6月19日(木)

入場無料

【関連イベント】
ギャラリートーク
6月15日(土) 14:00-



3 第23回 奄美を描く美術展

(1) 本展

- ア 開催期間 令和6年10月12日(土)～11月4日(月・振休)
- イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室
- ウ 来場者数 3,270名

(2) 巡回展

- ア 開催期間 令和6年11月21日(木)～24日(日)
- イ 場所 大和村防災センター 2階 防災研修室
- ウ 来場者数 126名
- エ 内容



「奄美」をテーマに全国から作品を募集し、奄美の素晴らしさを全国に発信しようと思った本美術展は、地元企業や美術愛好家など、多くの方々の御支援により開館以来毎年開催している。今回23回目を迎えた本展では、全国から117点(油彩・水彩・アクリル・日本画・工芸など)の作品が寄せられ、厳正な審査の結果各賞作品を選出し、入賞10点、入選50点の合計60点の作品を展示した。また、大和村で実施した巡回展では、入賞10点と入選作品の内、賞候補に選ばれた作品16点を加えた計26点を展示した。

審査員長を務めた土方明司氏(川崎市岡本太郎美術館館長)は、「全体的に非常にレベルが高い。日本画、洋画、水彩、工芸など手法が多様で、それぞれの作者が見て感じた奄美を表現している。百人いれば百通りの世界観がある。入賞・入選した作品は、作者の個性が発揮され、鑑賞者に訴える力のあるものが揃った。納得のいく審査ができた。この“奄美を描く美術展”は、技術・テクニックの熟練を求めているというよりは、作者が独自の奄美を見つけ、それを作品化することを求めていると思う。そうして生み出された作品によって、観た人の新たな気づきに結びつく。ぜひこれからも、そういった作品が集う展覧会であってほしい」と評した。

また、10月26日(土)に企画展示室において授賞式を行い、大賞を受賞した神奈川県在住の横山陽一氏を始め、7名の入賞者が出席した。授賞式では奄美を描く美術展実行委員会の宮崎緑会長より賞状と記念品を授与し、大賞の横山氏からは、「奄美が大好きで、何度も訪れている。今回の大賞受賞はとても驚いた。この作品は、大和村の豊年祭で相撲を観て、土俵の周りを飛んでいる蝶と祭の熱気に魅了され、けんむんが相撲を取っているところや蝶が飛ぶ様子を描いた。これからも奄美を訪れ、描いていきたい」とコメントをいただいた。

本展来場者からは、「温度や湿度が伝わってくる作品が多く、改めて奄美の魅力に感動しました」「実際に見た奄美を一人一人画家さんの違った視点で見られて非常に楽しかった」と感想をいただいた。巡回展来場者からは、「出前の展示会ありがとうございました。近くですばらしい絵画を観ることができました。受付の方に説明して頂き、楽しい時間でした」「奄美の自然の魅力を改めて深く感じた。自然と紬などの伝統文化の調和が特に印象に残った」「子どもたちがすてきな作品と出会い、まずは“すごい”“きれい”“どうやって描くの?”と歓声をあげ、その後じっくり見入っていた。それぞれの作品に力があり、工夫があり、学習になった。ありがとうございました」と感想をいただいた。



第23回 奄美を描く美術展

【本展】 会 期：令和6年10月12日（土）～11月4日（月・振休）
※休館日 10月16日（水）

観覧時間：9:00～18:00（最終日は16:00まで）
会 場：田中一村記念美術館 企画展示室 【観覧無料】

【巡回展】 会 期：令和6年11月21日（木）～11月24日（日）
※会期中、休館日は無し

観覧時間：9:00～17:00（最終日は15:00まで）
会 場：大和村防災センター 防災研修室 【観覧無料】

大 賞



《けんむんの杜》

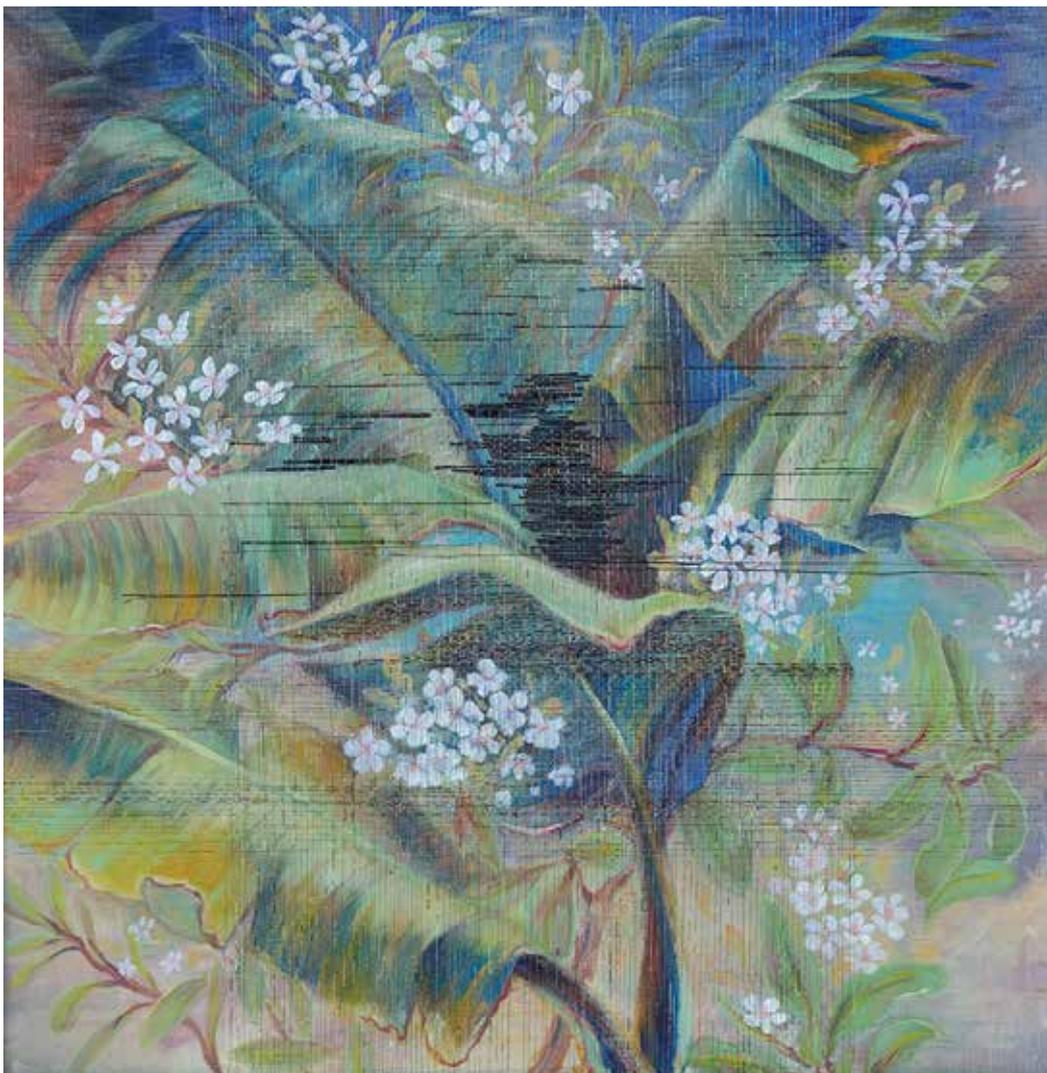
S15号 油彩・コラージュ

横山 陽一（神奈川県）

【評】

作者独自の視点で見た奄美が、個性的な表現にうまく落とし込まれている。不思議な幻想性が違和感なく絵画化されており、作者が鑑賞者に伝えたい世界が画面全体にあふれている。テーマ性、表現技法ともバランスが取れており大賞作品にふさわしい。

田中一村記念美術館賞



《 絁ぎ続けることについて 》

S15号 油彩・糸

中嶋 友美 (奄美市名瀬)

〔 評 〕

ベースであるキャンバスに奄美の植物が描かれ、その上に大島絁の糸を縫い込むという挑戦的なファイバーワークを試している。この試みは自己満足に終わることなく、絵画という限定された空間に深みを与えることに成功している点が、非常に評価できる。

〔 審査総評 〕

全体的に非常にレベルが高い。日本画、洋画、水彩、工芸など手法が多様で、それぞれの作者が見て感じた奄美を表現している。百人いれば百通りの世界観がある。入賞・入選した作品は、作者の個性が発揮され、鑑賞者に訴える力のあるものが揃った。納得のいく審査ができた。

この「奄美を描く美術展」は、技術・テクニックの熟練を求めているというよりは、作者が独自の奄美を見つけ、それを作品化することを求めていると思う。そうして生み出された作品によって、観た人の新たな気づきに結びつく。

ぜひこれからも、そういった作品が集う展覧会であってほしい。

(第23回奄美を描く美術展 審査員長 土方明司)

優秀賞



しつやさんぽ

《 湿夜散歩 》

F10号 油彩

大島 美森 (京都府)

[評]

不思議な作品だ。決して奇をてらった場面ではない、おそらく自然の一つの情景を切り取ったものだろう。しかし、フォルムの捉え方や柔軟な色彩の表し方が見事にかみ合い、現実とは異なる非日常的な空間の表現に成功している。また、余白を効果的に使ったことが画面全体を引き立てている。



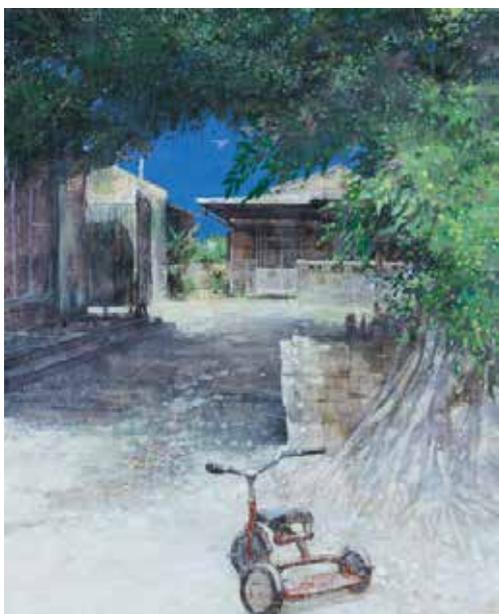
《 つむぐ想い 》

F15号 アクリル

渡瀬 俊輔 (鹿児島市)

[評]

作者の画力が光る、非常にうまい絵である。手前の写実的で克明に描かれた女性像と、背景の塊で捉えたガジュマルとの対比が効果的だ。全体的にモノクロームの表現であるが、豊かな色彩を感じさせる。日常と非日常のあわい、境目を見事に表したレベルの高い作品だ。



じかん

《 時感 — AMAMI (2024) 》

F15号 油彩

餅原 宣久 (鹿児島市)

[評]

島の日常の一瞬を切り取ったスナップショット的な構図で、丁寧に描かれている作品である。色彩の使い方がうまく、緩やかな明暗、光と影は劇的ではなくさりげなく描いている。画面手前の、三輪車が淡く光の中に溶け込んでいく光景は、幻想性を生み、デジャビューの世界に鑑賞者を引き込む。

佳作



《 静寂 》

M10号 日本画

池見 悠 (京都府)

[評]

モノトーンに近い青が、神秘性を宿している。おそらく奄美の実景をスタートとしながら、その風景を内面化して物語性のある非常に豊かな世界に表現していることが評価できる。



《 海に映る 》

F15号 アクリル

當眞 洋美 (奄美市名瀬)

[評]

空と水面の描き方の対比に新鮮な感覚が見られ、特に水面は異なる二つの筆使いが目を引く。水面に映り込んだ雲の造形が成功している。新しい試みに取り組もうとする作者の心情がうかがえ、評価できる。



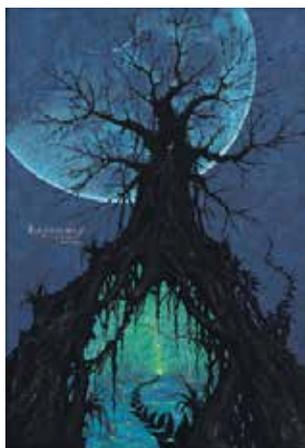
しま たから 《 奄美大島ぬ寶 》

F15号 アクリル

中元 としみ (徳之島町)

[評]

シンプルで素直な表現だからこそ、一筆一筆に込めた作者の思い、この作品に対する愛情愛着がひしひしと伝わってくる。サガリバナの表現が装飾的で、この作品の良いアクセントになっている。



《 輪廻のさらにその先へ 》

M15号 アクリル・木塑粘土

Tako★MASARU (神奈川県)

[評]

独自の世界観が魅力的だ。レリーフのように絵の具を盛り上げて描いた木、その木が抱いた奥へと伸びていく異次元空間、そして大きく描かれた月。そういった現実と異次元の対比をうまく作品化している。



《 記憶する ADAN II 》

64x62cm 工芸

平井 真人 (沖縄県)

[評]

幾何学的なフォルム、黒だけに絞った色彩、布の手触りやシワ、それらがうまく融合して独自の表現を生み出している。このことが、鑑賞者に自由な発想のきっかけを与えてくれる。

入 選

作者名	作品名	サイズ 素材等	作者名	作品名	サイズ 素材等
丸山良二郎	★ 想う	F15号 水彩	西田 尚子	無常	F15号 日本画
田中 孝林	★ 記憶のスケッチ	F15号 ミクストメディア	加藤 恵子	IKAROS	52.5×36.5cm 水彩
高山 法雄	★ 魂で染める	F15号 水彩	中尾 克依	楽園	F10号 パステル・水彩
坂本 千春	★ 深青の世界	F15号 アクリル	喜山 弘二	思い出のじいちゃん家	F10号 クレパス
関根 美里	★ 島のめざめ	M10号 アクリル	藤井 眞弓	赤い蘇鉄	F10号 油彩
北川 清子	★ 奄美追想	S15号 水彩	広岡ひとみ	夏の思い出	F10号 アクリル
金 道子	★ 夏の荒場	50×35cm 油彩	成田 夏希	宝探しの夜	P15号 日本画
瀧田 秀子	★ ヒズキの音色	F15号 アクリル	小島 尚子	奄美の森の楽しみ	S15号 アクリル
中田 久男	★ till there was her	41×48cm 油彩・テンペラ・コラージュ	藤本 信司	秒夏の土盛	M10号 日本画
重村 敏光	★ 光・差す島「奄美」	S15号 日本画	喜納 祥子	歓迎（クワズイモ）	F15号 油彩
前川 智映	★ 奄美の森が輝く時間	F15号 日本画	渡 洋子	油井豊年祭	F15号 油彩
佳元 佐知	★ 名瀬の夕焼け雲	F10号 油彩	Kate O'Callaghan	Emerald Steps - materiya	F15号 アクリル
仲村 和三	★ 深山峡谷	F15号 油彩	池田三樹子	トロピカルの果実	F10号 アクリル
服部佐紀子	★ 雨のあと	F10号 アクリルガッシュ	麓 真理子	空と海とベニアジサシ	F15号 油彩
松野 勉	★ 奄美幻影	P8号 鉛筆	前島美和子	生きる力	F10号 水彩
千賀 ちか	★ 月夜のお散歩	F15号 水彩	東 菜月	call	F12号 油彩
岡山 良治	木霊	F15号 アクリル	栄 俊久	奄美の宝Ⅱ	F15号 アクリル
野間 まり	古仁屋の魚屋さん	F15号 油彩	安江 福子	金作原	F15号 油彩
新島 修二	加計呂麻島より 東シナ海を望む	F15号 油彩	玉城 邦子	旅立ち	F15号 油彩
田村 信子	そてつとクロトン	53×65cm 工芸	上田 泰徳	寄港	F15号 日本画
嶋田 敏夫	樹々の音	S15号 水墨画	屋 幸子	癒しの島奄美	F15号 水彩
草薙 友貴	AMAMI（甘実 & 奄美）	F15号 油彩	中村 哲郎	雨あがる	F10号 日本画
北山みね子	ソテツの森にて	F8号 水彩	栄 ミホ	埋む	F10号 アクリル
元井 晴美	芝や戯画	F15号 油彩・アクリル	植村 恭子	ゆらい〜平瀬マンカイ〜	F15号 火山灰
稲井田有希	海へかえる	F10号 油彩	成 実	紅三華月〜桜蘭， 琉球定家葛，大浜朴〜	F15号 墨・アクリル・テンペラ

※ ★印は「賞候補作品」

※ 「入賞作品 10 点」及び「賞候補作品 16 点」は、大和村で開催する
巡回展に展示（会期：令和 6 年 11 月 21 日～11 月 24 日）

4 美術講演会

展覧会の舞台裏－田中一村展ができるまで－

講師：東京都美術館学芸担当課長 中原 淳行 氏

ア 開催日時 令和6年10月13日（日） 14：00～15：30

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 来場者数 65名

エ 内容

「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」の主催団体の一つである東京都美術館学芸担当課長の中原淳行氏を講師に迎え、通常は公にされることのない“展覧会ができあがっていく様子”や、企画のねらい、会期中の会場の様子をお話いただくことで、聴講者の各美術館や美術展に対する興味関心を高め、また、奄美からの「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」集客につなげることを目的として開催した。

講演会前日には、あまみエフエムの生放送番組「ゆぶにいんぐアワー・夕方フレンド」に中原氏と宮崎緑館長が出演し、広く来場を呼び掛けた。

「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」担当者として、企画立ち上げ・準備・展示と全てに携わった中原氏は、展覧会ができるまでの過程や裏話、主催者のねらいなどを、様々なエピソードを紹介した。

中でも、展覧会を計画するにあたり行われた、各主催団体の担当者による会議の中で決定したサブタイトル「奄美の光・魂の絵画」に込められた思いや、「巡回はない。一会場で最高の一村展を」「東京での開催は悲願」という会議の中で挙げた言葉を紹介しながら展覧会主催関係者の今回の展覧会に対する熱意などが語られた。

また、一日に数千人の来場者が訪れるだろうという想定から、来場者が前後に重なっても鑑賞しやすいよう、通常展示する人の目線の位置から約10cm、展示位置を高く設定しているということや、照明にこだわり、試行錯誤した結果、開幕当日までかかったことなど、とても貴重な裏話を伺った。

聴講者からは、「画家、作品に失礼にならない様、魂を込めて作業に関わっている事など、とても良いお話を聞かせていただき、ありがとうございます」「一村展の始まりから作品の運送、展示室の建設まで様々な分野のお話が聞けて良かったです。大変貴重でした。一度一村展に行きましたが、お話を聞いた上でもう一度見に行きたいと思いました」等の感想をいただいた。



5 第14回 田中一村記念スケッチコンクール作品展

ア 開催期間 令和6年11月16日(土)～12月8日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 3,241名

エ 内容

奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活、伝統行事などをテーマにスケッチ作品を募集し、応募のあった1,178点の作品のうち、入賞・入選作品401点を展示した。どの作品も対象をよく観察し、技法や彩色、素材などを工夫して丁寧に描かれており、奄美の自然や文化を愛する心や作品に対して一生懸命に取り組んだ様子が感じられた。

11月16日(土)に開催した授賞式には、受賞した児童生徒16名とその家族や関係者が参列した。授賞式後には受賞者によるギャラリートークを行い、学芸専門員から審査講評やアドバイスをもらいつつ、作品に関する工夫や思いなどの質問に答えていた。

来場者からは、「自分の作品が展示されていると聞いて、訪れました。どの作品も色々個性があり、絵の参考になりました。中学校最後に展示されて光栄でした。ありがとうございました」「どの作品もすばらしかった。特別賞の作品の良かった点などがあれば、次回、子どもに描かせる時の参考になるなあと思いました」「奄美の自然に抱かれている子どもたちは、こんなにもすてきな絵を描くことができるのですね。奄美の豊かさにうらやましささえ思います。心打たれる絵を見せていただき、ありがとうございました」など感想をいただいた。

○関連イベント

授賞式 令和6年11月16日(土)14:00～ 田中一村記念美術館 企画展示室

○受賞者

【小学校低学年の部】

田中一村記念美術館賞	楠元 花英	龍郷町秋名小学校1年
大島教育事務所賞	小田島 さわ	奄美市名瀬小学校2年
優秀賞	嶺岡 快成	徳之島町亀津小学校1年
優秀賞	田袋 夏帆	徳之島町母間小学校1年

【小学校中学年の部】

田中一村記念美術館賞	重 侑李	奄美市小宿小学校3年
大島教育事務所賞	森山 日南子	奄美市名瀬小学校3年
優秀賞	岩本 克己	伊仙町糸木名小学校4年
優秀賞	杉山 夢姫海	天城町岡前小学校与名間分校3年

【小学校高学年の部】

田中一村記念美術館賞	師玉 栞那	奄美市朝日小学校6年
大島教育事務所賞	重 樹凜	奄美市小宿小学校5年
優秀賞	池田 光城	奄美市朝日小学校6年
優秀賞	山田 佳蓮	龍郷町大勝小学校6年

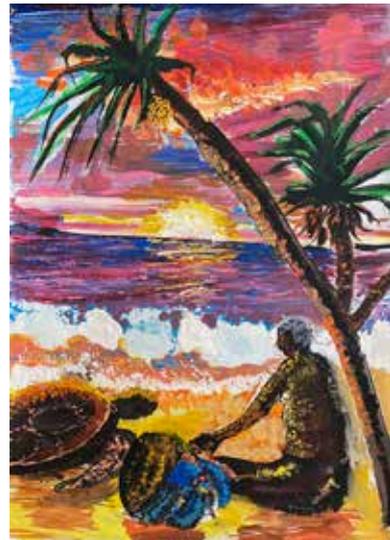
【中学校の部】

田中一村記念美術館賞	船岩 優里	和泊町和泊中学校1年
大島教育事務所賞	久永 優月	奄美市芦花部中学校3年
優秀賞	別府 愛琉	龍郷町赤徳中学校2年
優秀賞	今井 奏汰	和泊町和泊中学校2年

田中一村記念美術館賞 受賞作品



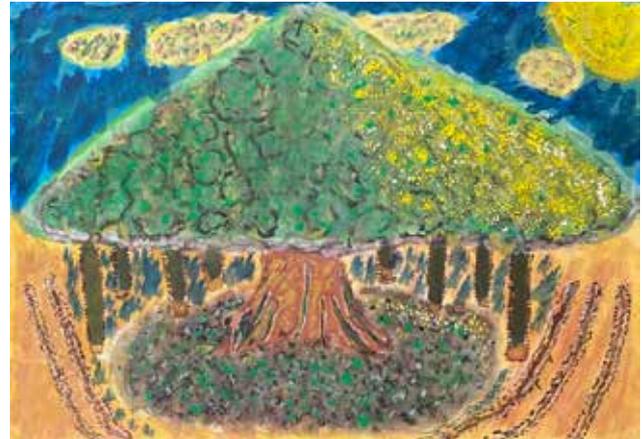
小学校低学年の部 楠元 花英
『アダンにかこまれたオカヤドカリ』



小学校中学年の部 重 侑李
『ピンクの海とじいじ』



小学校高学年の部 師玉 菜那
『新しい朝』



中学校の部 船岩 優里
『月明かりにてらされるガジュマル』



6 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

ア 開催期間 令和6年12月21日(土)～令和7年1月5日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 1,626名

エ 内容

本展示会では、龍郷町の小学校7校と中学校3校の児童・生徒が授業で制作した粘土や仮面などの立体作品を104点、絵画や版画などの平面作品を422点出品してもらい、学校ごとに展示した。同じテーマの学習でも使用する素材によって様々な表現方法があり、多様性を感じる展示となった。

会期が冬休み期間ということもあり、家族連れや孫の作品を見に来る地元の来館者、観光で偶然立ち寄って見られる方など、期間を通して来場者も多かった。

来館者からは、「どの作品も自由でのびのびして楽しかったです」「子どもたちの素敵な絵に元気もらった」「色々な学校があるけどみんな上手ですごかった。気持ちがこもった作品があっという間と思えました」「色彩豊かで、子どもたちの明るい気持ちがよく絵に反映されていると思い、見ている私にとってもうれしい気持ちにさせてくれる絵ばかりでした」「学校ごとにいろいろな作品が展示されておりよかったです。読書感想画や、奄美の生き物の作品、立体作品が特によかった」と感想をいただいた。

令和6年度
龍郷町立小・中学校
図画工作・美術科
学習発表展

児童・生徒の学習成果を
一堂に展示する展覧会です

参加校 (小学校・中学校)

秋名 小学校	円 小学校
大勝 小学校	赤徳 小学校
龍郷 小学校	龍瀬 小学校
戸口 小学校	赤徳 中学校
龍南 中学校	龍北 中学校

令和6年 12月21日(土) - 令和7年 1月5日(日)

鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館
企画展示室

入場無料

開催時間 9:00-18:00 (最終日17:00)

【お問い合わせ】 田中一村記念美術館 TEL:0994-0504 龍郷町立中央図書館 TEL:0997-654002 龍郷町立 総合文化センター TEL:0997-654002



7 第3回 奄美を写す写真展

ア 開催期間 令和7年1月11日(土)～2月2日(日)

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 来場者数 3,182名

エ 内 容

第3回奄美を写す写真展は、全国から280点の素晴らしい作品が寄せられ、審査の結果、入賞10点、入選130点の作品が選ばれた。出品点数や出品者数も前回より増え、出品者の意欲と作品のレベルの高さを感じた。

審査員長を務めた青木良貴氏(株式会社奄美新聞社 報道部記者)は、「多士済々な作品群には、いつものあの日常や風景がこんなふうに表現できるのかと改めて驚かされた。本展の特長は、画像加工ができるという自由さにある。身の回りの景色を見つめ直し、わずかなアイデアを加えるだけで、今までにない作品が生まれる可能性がある。画像加工は一つの手段に過ぎないが、それで島や奄美に対する表現が豊かになったことには意義もある。粒ぞろいの写真たちが、個々の技術や価値観、感性をアップデートする一助になれば幸いだ」と評した。

会期初日から会場は、地元の方々や観光客など多くの来場者で賑わいを見せ、様々な奄美の写真を楽しまれていた。

来場者からは、「写真から色々と物語が伝わってきて楽しかったです。少し涙も出てきました」「色々な奄美の表情を切り取った写真の数々が見られて、とても良かったです。来年は自分も応募してみたくくなりました。またぜひ開催してください」「お金を払ってでも見たくなるような内容でした。撮影者の日常の切り取り方がそれぞれ異なっていて興味深く拝見させていただきました」等の感想をいただいた。

○関連イベント

授賞式 令和7年1月25日(土) 14:00～

○受賞者

【奄美を写す写真展大賞】 園 こうじろう

【田中一村記念美術館賞】 山田 心南

【優秀賞】 中山 浩彰, 榮 乃愛, 田畑 より子

【佳作】 秋元 愛, 積 信一, 大島 英世, 河本 明日香 【ヤング賞】 溜畑 李乃娃



【大賞】園こうじろう『赤い土』

第3回 奄美を写す写真展

会 期 令和7年1月11日（土）～2月2日（日）※休館日 1月15日（水）
開館時間 9:00～18:00 ※入館は17:30まで
会 場 田中一村記念美術館 企画展示室

大 賞



《赤い土》園 こうじろう（知名町）

[評]

枯れたヒマワリ、赤土の彩色でまとめた配色が巧み。モノクロの背景が被写体のスケール感を増幅させる。一つ間違えれば平凡に終わる風景。作画が作品を強くした。繊細な表現力。作者の技量が素晴らしい。

田中一村記念美術館賞



《波から逃げる弟》山田 心南（龍郷町）

〔評〕

傾く人と水平線が人に動きを与え、臨場感を生み出している。特別な撮影でなくても、いい瞬間や表情、構図を正しく押さえれば作品に説得力は生まれる。弟の心を覗き見たような作品名がマッチする。

佳作



《夜明けのおくりもの》秋元 愛（福岡県）

〔評〕

朝焼けが葉っぱに落ちた白い花を照らす。光の加減が秀逸だ。柔らかな太陽光と植物が醸す深い色彩のコントラストが作品を力強くみせる。サガリバナの花言葉は「幸運が訪れる」。東の間がくれた贈り物だ。



《朝散歩》積 信一（奄美市）

〔評〕

挑戦と意欲が随所に見える。朝日の前で海に佇む男性、ごわごわとした雲、景色を映す鏡のような水面。全てが計算し尽くされた方程式のようで、いつもの光景とのギャップに驚く。撮影も画像処理もハイレベル。

優 秀 賞



《Symphony No.9 "From the New World"》中山 浩彰 (奄美市)

[評]
水中に潜む獲物を鳥が静かに狙っているのだろうか。濃紺と黒のダブルトーンが緊張感を生む。作品名はドヴォルザークの交響曲「新世界より」。曲を聴きつつ鑑賞できれば状況は一変しそう。視点が斬新だ。



《魚いる！！》榮 乃愛 (龍郷町)

[評]
キラキラと輝く陽の光を遮るように海辺に浮かぶシルエットが、思い出のような風景を想起させる。人、海、背景が一つの空間にまとまっている。一心に魚を追う子どもの姿が自分の中に眠る記憶とリンクする。



《ムチモレ踊り in 湯湾釜》田畑 より子 (奄美市)

[評]
熱を帯びる様子がうまく捉えられている。夜の灯りの下、気炎を上げる唄者、勢いづく踊り手の一体感、祭りは最高潮と分かる。受け継ぐ文化への敬意が滲み出ている。モノクロに仕上げることで象徴性が増した。

佳 作



《ネリヤカナやまわり舞台》大島 英世 (宇検村)

[評]
たなびく空、水平線に溶け込むリーフ、手前の海に透けるサンゴの環礁。天気や時間の条件、構図までがフォトジェニックだ。人の配置がみそ。非常にシンプルだが、伝えたい「舞台」の表現に成功している。



《十人十色・十魚十色》河本 明日香 (奄美市)

[評]
サンゴの合間から顔をのぞかせ、何か言いたげなハゼたち。一瞬、微笑むようにも見える偶発的な表情が心を和ませる。写真は狙いも大切だが、不可思議な魅力に惹かれる。ふいを突く唐突感がたまらない。

ヤング賞



《ハートの洞窟》 溜畑 李乃娃 (奄美市)

[評]
楽しみながら撮影したんだ、とよく伝わる。洞窟の出口にはハート形の青空が待ち受ける。その先に見える手の演出は、何にしてもご機嫌だ。若者の冒険心と探究心に満ち満ちた一枚。まさに今しか撮れない。

[入選・賞候補] ※受付順

上田雄哉 (兵庫県) 前沙織 (伊仙町) 成実 (奄美市) 山田素義 (兵庫県) 奥昭仁 (奄美市) 中山浩彰 (奄美市) 此垣内丈二 (奄美市) 稲村真矢 (奄美市) 菊野夏音 (奄美市) 前田純花 (奄美市) 清正鈴之介 (奄美市) 諏訪結音 (奄美市) 森山聖也 (東京都) 幸昂作 (東京都) 隈元香里 (奄美市) 中間勝朗 (熊本県) 寺岡勇泰 (奄美市) 里村強志 (宇検村) 積信一 (奄美市) 深田譲 (奄美市) YokoOhyes! (龍郷町) 藤田悠聖 (徳之島町) 西玲奈 (大阪府) 川口晋作 (東京都) 前島沙綾 (奄美市) 彩音 (奄美市) 三浦里穂子 (徳之島町) RINALDI CRESTOPHER (徳之島町) ROCKY ARAKI (埼玉県) 川崎聖一郎 (瀬戸内町)

[入選] ※受付順

佐久間直美 (神奈川県) 上田雄哉 (兵庫県※2点入選) 吉田辰男 (奄美市※2点入選) 河本明日香 (奄美市) 前沙織 (伊仙町) 勇以都雄 (喜界町) 武ちとせ (奄美市) 森田和博 (奄美市) 齊藤憲一 (奄美市) 細谷和希 (瀬戸内町) 土屋尚幸 (奄美市※2点入選) 川口圭子 (奄美市) 崎田武志 (奄美市※2点入選) 成実 (奄美市) 西保吉 (鹿児島市) 中速男 (奄美市) 沖政仁 (奄美市) 沖恵里子 (奄美市) 冨居ゆかり (喜界町※3点入選) 山田素義 (兵庫県) 奥昭仁 (奄美市) 森山蘭 (奄美市※2点入選) 向美芳 (奄美市) 中嶋哲也 (東京都※3点入選) 増山さくら (東京都) 屋宮央哉 (奄美市※2点入選) 山畑海勝 (瀬戸内町) 中山浩彰 (奄美市) 此垣内丈二 (奄美市※2点入選) 松岡由紀 (伊仙町) 稲村真矢 (奄美市※2点入選) 荒川浩亮 (奄美市) 児玉一石 (奄美市) 森俐穂 (奄美市) 牧原史和 (奄美市) 川元優雨 (奄美市) 當原心美 (奄美市※2点入選) 鈴木明 (奄美市) 峯京太郎 (宇検村) 永田羽音 (奄美市) 岸田苺子 (龍郷町) 中宮弘夢 (奄美市) 山田心南 (龍郷町※2点入選) 長谷場結花 (龍郷町) 中蘭結衣 (奄美市) 福田花 (龍郷町) 森田涼必 (奄美市) 清正鈴之介 (奄美市) 碓山咲 (龍郷町) 豊島陽 (奄美市) 高井芽生 (奄美市) 二瓶成 (龍郷町) 平井隆 (奄美市※3点入選) 中篤 (奄美市) 中勉 (奄美市) 徳田美加子 (徳之島町) 幸昂作 (東京都※2点入選) akubi (知名町※2点入選) 大津卓也 (奄美市) 中間勝朗 (熊本県) 寺岡勇泰 (奄美市) 大岡真作 (宇検村) 阿多石めぐみ (熊本県) 大郷寛子 (熊本県) 泉誠志郎 (奄美市) 高理沙 (龍郷町※2点入選) 田畑より子 (奄美市※2点入選) 榊谷寿治 (奄美市) 三宅環 (鹿児島市) 積信一 (奄美市) 榮乃愛 (龍郷町) 金城由江 (奄美市) YokoOhyes! (龍郷町) 藤田悠聖 (徳之島町) 前島創一朗 (奄美市) 前島沙綾 (奄美市) 前島創真 (奄美市) RINALDI CRESTOPHER (徳之島町) 松岡弘晃 (高知県) 渡辺あや子 (北海道)

[審査総評]

第3回を迎えた「奄美を写す写真展」。前回を上回る数の作品が集まり、見応えのある審査になった。それぞれに思い入れのある秀作が全国から寄せられた。多士済々な作品群には、いつものあの日常や風景がこんなふうに表現できるのかと改めて驚かされた。

近年はスマートフォンやSNSの普及で、写真を撮る行為が誰にでもできる手軽なものになった。時代が変われば、動向も変化する。人と写真の関係も時代に合わせて進化しているのだと気づかされた。

本展の特長は、画像加工ができるという自由さにある。身の回りの景色を見つめ直し、わずかなアイデアを加えるだけで、今までにない作品が生まれる可能性がある。画像加工は一つの手段に過ぎないが、それで島や奄美に対する表現が豊かになったことには意義もある。粒ぞろいの写真たちが、個々の技術や価値観、感性をアップデートする一助になれば幸いだ。(審査員長 青木良貴)

第3回奄美を写す写真展

主 催 奄美を写す写真展実行委員会
共 催 奄美群島広域事務組合 (鹿児島県奄美パーク)
後 援 (一社) 奄美群島観光物産協会 奄美新聞社 南海日日新聞社 あまみエフエム ディ！ウェイヴ
事 務 局 田中一村記念美術館 (電話 0997-55-2635 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834)

8 創作体験教室

(1) 日本画講座

ア 開催日時 令和6年6月2日(日) 10:00～15:00

イ 場所 奄美の郷 レクチャールーム

ウ 参加者数 18名

エ 内容

日本画家で当美術館初代学芸専門員の西村康博氏を講師に招き、日本画の創作体験教室を開催した。

学芸専門員が講座の流れを説明した後、講師から日本画や一村作品との出会いなど、貴重な話を伺った。そして、講師が解説を加えながらデモンストレーションを行い、参加者は間近で講師が描く様子を見て、真剣に学んでいた。

その後参加者は、持参した植物や野菜、貝殻などのモチーフをよく観察しながら鉛筆で画用紙に下描きをし、講師の助言を受けながら彩色まで行った。

また、午後からは午前中に描いた作品の一部を、トレーシングペーパーを使って11cm四方の金箔を貼ったパネルに写し取り、作品制作を行った。金箔が水をはじくため、参加者は彩色に苦戦していたが、絵具の水分量に気をつけながら丁寧に描いていた。

講評では、「モチーフの色の微妙な違いをよく意識して丁寧に仕上げ、作品を完成させていて良かった。植物の関節を意識するともっとリアルになり、格段に良くなる。一村の作品もよく観察し、参考にしてほしい。そして今後も、日常的に描いてレベルを上げてほしい」と話された。

参加者からは、「金箔の上に描くのがとても難しかったが、経験することができてよかった」「楽しい一日を過ごすことができた。画材も全て用意していただいたことで参加しやすかった」と感想をいただいた。

【田中一村記念美術館 創作体験教室】
日本画講座
「日本画ってなんだろう？」に答えます！
日本画の基礎・基本が学べます
ペダラン専門員による産地指導！
絵画表現のテクニックを丁寧に伝授
楽しい講座のことは是非お気軽に参加！
画材はすべて美術館が準備します

受講料 無料
※事前申込みが必要です

2024
日時 6/2 10:00-15:00
(13:00～13:00開場)
会場 奄美の郷 レクチャールーム
定員 20名 ※対象年齢10歳以上
講師 西村康博氏 (日本画家 島美術館初代学芸専門員)
準備する物 モチーフ(植物、果物、貝など)、台紙、
絵具、飲み物 ※画材一式は美術館で準備します
申込み方法 5月25日(土) 17:00までに田中一村記念
美術館へ電話で申込んでください。 ※定員を越えた
場合は抽選
0997-55-2635
質問だけでも大丈夫です。気軽に電話ください！



(2) 写真講座

- ア 開催日時 令和6年5月26日(日) 10:00～15:00
イ 場所 奄美群島国立公園ビジターセンター奄美自然観察の森(龍郷町)
ウ 参加者数 生徒4名(中学生), 保護者2名 計6名
エ 内容

創作体験教室「写真講座」は、講師に写真芸術家の武部守俊氏を迎え、中・高生向けに実施した。始めに武部氏より、一眼カメラの持ち方や構え方に加え、マニュアル撮影で重要な“しぼり”について、撮影例をモニターに映しながら解説していただき、カメラの基本操作について学んだ。参加者たちは各自持参した一眼カメラを実際に操作し、操作方法を確認したり、武部氏の撮影した写真を見ながら理解を深めた。

説明後は森の中へ移動し、奄美自然観察の森の指導員、川畑力氏にガイドをして頂きながら、植物や池の水面など、自ら撮影したい物を探して撮影に挑戦した。途中、参加者は、講師からピントの合わせ方や明るさの調整、構図の取り方などを教えてもらおうと、すぐに実践し、撮影を楽しんでいた。

また、川畑氏から天然記念物のアマミシカワガエルも見せていただき、「被写体への配慮を忘れずに撮影を楽しんで欲しい」とアドバイスを受けた。

参加者はその後屋内へ戻り、武部氏からカメラのメンテナンスについて講習を受け、雨でついたカメラの水分を拭き取り、専用のアルコール綿でレンズとカメラ本体の接続部分のホコリや水分を拭き取った。そして、カメラの保管方法についても、奄美は年間を通して湿度が高いため、保管庫がない場合は、カメラバックの中で保管するのではなく、風通しのよいところにかけておくのが良い、と教えていただいた。

その後、参加者達は撮影した写真の中から自分のお気に入りの1～3枚を選び印刷し、作品を他の参加者へ紹介して、気に入っているポイントや工夫したことなどを発表し、武部氏からそれぞれ講評を受けた。

講師は、「参加者の飲み込みが早く、どの作品も初心者の作品とは思えないくらい素晴らしく、驚いた。今回の講座をきっかけに、これからもカメラや写真に興味を持ち、趣味としてでも続けて欲しい」と話した。

参加者からは、「今までは、オート機能で撮影しており便利だったが、もう少し明るくしたいと思うことなどもあったため、今回学べてよかった。自然に触れることもでき、楽しかった」「実際に写真を撮りながらカメラの色々な機能などを知ることができて良かった」と感想をいただいた。

2024
5/26 10:00-15:00
場所 奄美自然観察の森 (龍郷町)
対象 中学生・高校生10名
講師 武部守俊氏 (写真芸術家)
※ 受講にはご自身の一眼カメラ(一眼レフカメラ)が必要です
申し込み方法 5月18日(土) 17:00までに田中一村記念美術館へ電話で申し込んでください。
0997-55-2635
無料でも大丈夫です。気軽に電話ください!



9 夏休みワークショップ

(1) 親子草木染め体験

ア 開催日時 令和6年7月14日(日) 10:00～15:00

イ 場所 田中一村記念美術館 屋外管理棟(美術館職員駐車場)

ウ 参加者数 27名

エ 内容

(一社) Amamiしま作捌線に所属する染色家の植田正輝氏らを講師に招き、「親子草木染め体験」を開催した。

参加者は、まず初めに自然の素材を生かした染色技法を学び、事前に講師等がパーク内から採取したフクギの枝から葉をもぎ取る作業を行った。

フクギの葉を煮出して染色液を作っている間に、持参したTシャツ、ハンカチ、バッグなどを輪ゴムや紐で縛り、模様を付ける準備を行った。

フクギ(黄)と講師が用意した藍の2色を使って、染める、媒染する(ミョウバンで発色・定着)、乾かすを繰り返し、水洗い後乾かして完成させた。

参加者からは、「藍で染める時、フクギの黄色を残すのが難しかった。模様を考えるのが楽しかった」「島にいてもなかなか染め物に触れることがないので、いい体験だった」「染色液を作る工程も体験できて楽しかった」と感想をいただいた。

親子草木染め体験

草木染めは、化学染料ではなく身の回りの植物の葉や茎、根、実など自然の素材から色素を抽出し、染料との化学反応で繊維を染めます。親子で「草木染め体験」をしてみませんか。

2024
日時 7/14(日) 10:00 - 15:00
(13:00～15:00開場)

会場 パーク
屋外管理棟 (田中一村記念美術館 職員駐車場)

対象 小学生・中学生とその保護者 **20名**
小学生は必ず保護者同伴で参加してください。

講師 植田 正輝さん 染色家
Amamiしま作捌線 顧問

準備する物 汚れてもよい服装、帽子、着食、飲み物、タオル、染めたいもの(紐や輪ゴムのTシャツやハンカチなど)

申込み方法 7月6日(土)までに右の二次発
バーコードから申込んでください。

問合せ先 TEL 0997-55-2635 田中一村記念美術館 (営業) 土曜・日曜



(2) 夏休み親子バックヤードツアー & 鑑賞会

- ア 開催日時 令和6年8月4日(日)
 <午前の部> 10:00 ~ 11:30 <午後の部> 13:30 ~ 15:00
- イ 場 所 田中一村記念美術館
- ウ 参加者数 午前の部 15名, 午後の部 8名
- エ 内 容

ツアーの前半では、美術館の4つの役割や当美術館のルールなどについてクイズを交えながら紹介し、館長室や学芸員室など普段見ることのできない美術館のバックヤードを案内した。

館長室では、館長席に座り記念撮影を行った。また、学芸員室や機械室など各部屋の役割の他、収蔵庫の前では作品管理のために重要な「燻蒸」についても学芸専門員が解説した。企画展示室では、作品を展示する工程を、実演を交えて紹介した。

参加者たちは熱心にメモを取りながら解説を聞いており、中には夏休みの自由研究のために参加したという児童もいた。

後半は、展示室にて鑑賞会を行った。一村の生涯を作品とともに説明し、親子で学芸専門員に質問しながら解説を聞いていた。

参加者からは、「普段見ることのできないバックヤードや田中一村さんの貴重な絵や写真を見せていただき、深く知ることができてよかった。これからも、田中一村さんの作品をたくさん見て、広められるようにしたい」「美術館を身近に感じることができ、とてもよいイベントだった」「説明が分かりやすく、クイズもあり、小学生の子どもも楽しみながら参加できた。親子で夏休みの思い出ができ、貴重な一日となりました。素敵な写真も撮っていただき、ありがとうございました」「自由研究に十分活かせられると感じた。小学校で皆に知ってもらえるよう、作り上げたい」との感想が挙がった。

夏休みの親子
バックヤードツアー & 鑑賞会

夏休みの自由研究に！
親子で美術館の役割が学べます

美術館の裏側を体験！
美術館の施設について解説します

田中一村の生涯へ！
学芸専門員が作品について解説します

参加料 無料
※事前申し込みが必要です

2024
日時 8/4 午前の部 10:00 - 11:30
 午後の部 13:30 - 15:00
※申し込みの順、どちらかを優先してください。

場所 田中一村記念美術館

対象 小・中学生とその保護者 15組程度
※応募者多数の場合は抽選

申し込み方法 7月26日(金)までに右の二次元QRコードから申し込みください。
 応募の結果は、全員にメールでお知らせします。

問合せ先 **TEL 0997-55-2635** 田中一村記念美術館 (開館: 10:00 - 17:00)



10 その他自主企画事業

(1) 学芸専門員派遣授業事業

①宇検村立名柄中学校

ア 開催日時 令和6年11月22日(金) 9:40～11:30

イ 場 所 宇検村立名柄中学校 中学2年生教室

ウ 参加者数 中学生4名(1年生1名, 2年生1名, 3年生2名), 職員4名

エ 内 容

宇検村立名柄中学校から、美術科授業の一環で学芸専門員派遣の要請があり、田中一村についての授業を行った。

担当教諭によると、宇検村は笠利町から遠く、生徒たちは田中一村記念美術館に行ったことがないことから、担当教諭と学芸専門員とで協議の結果田中一村の生涯や作品に関する解説に加え、一村が用いた日本画技法を実践することでより理解を深めることができる授業を展開することとした。

前半の授業(50分)では、大きなモニターに映したスライド資料やレプリカを示しながら一村について解説を行った。特に「なぜ一村はここ奄美にやってきたのか」や「一村は奄美の自然をどのような視点で観察し描いたか」など、奄美と一村の関係を中心に解説した。後半の授業(50分)では、日本画絵の具の組成を学んだ後、生徒たちは一村が描いたアカショウビンの彩色模写を行った。学芸専門員がデモンストレーションした後、生徒たちも挑戦した。初めて取り組む彩色法に、生徒たちは四苦八苦していたが集中して取り組んだ。

授業の最後、生徒たちに向けて「奄美の未来を担う皆さんが、田中一村という奄美の宝を語り継いでいってほしい」とメッセージを送った。



②鹿児島県立大島高等学校

ア 開催日時 令和6年6月14日(金) 11:50～12:55

イ 場 所 鹿児島県立大島高等学校 美術教室

ウ 参加者数 2年生文系 芸術・美術選択8名, 書道選択6名, 職員2名

エ 内 容

鹿児島県立大島高等学校から、芸術科・美術選択授業の一環で学芸専門員派遣の要請があり授業を行った。

担当教諭によると、現在、「日本画 ～私の好きな奄美・田中一村の足跡をたどる～」という題材で授業を展開しており、導入部分として学芸専門員による授業を要請したとのことだった。

授業対象生徒は、自ら美術を選択した生徒たちで元々興味関心が高く、また、事前に田中一村の予備知識を学んでいたため理解度が高かった。

授業では、大きなモニターに映したスライド資料をメインに、当館から持ち込んだアーカイバル(レプリカ)3点を大事なポイントで効果的に使いながら「一村が奄美の自然をどのような視点で観察し描いたか」や「描いたことにどのような意味があったのか」、「奄美の自

然や風土，文化に出会ったからこそ，田中一村は『真の田中一村』になりえた」ことを伝え，生徒たちに「郷土により愛着と誇りをもち，未来の奄美を担う人材になってほしい」というメッセージを送った。



(2) 田中一村記念美術館「リモート鑑賞授業」

奄美の自然を描き，日本画の新境地を切り拓いた田中一村の生涯や作品のよさ・美しさへの理解を深める鑑賞教育の一環と，田中一村記念美術館への認知や興味・関心を高め実際に訪れる一助として，鹿児島県内外の学校とリモートで繋ぎ鑑賞教育を推進することを目的として実施している。

鹿児島市立明和中学校

- ア 開催日時 令和6年11月27日(水) 9:45～11:35
- イ 場所 田中一村記念美術館事務室～鹿児島市立明和中学校
- ウ 参加者数 生徒51名(27名+24名)，教諭2名 計53名
- エ 内容

鹿児島市立明和中学校とインターネットでつなぎ，2年生2クラスの美術の授業における「鑑賞分野」のリモート授業を行った。

授業では，まず最初に，田中一村は50歳で奄美に移住したことや紬工場で染色工として働いたこと，奄美の自然や風土に触れたことで一村芸術が確立したことなどを一村の生涯や作品について，パネルを示しながら解説した。

次に，《不喰芋と蘇鐵》や《初夏の海に赤翡翠》など，奄美時代の代表作を取り上げて作品の特徴を解説しつつ，日本画の材料である岩絵の具や膠の実物を示して，より理解が進むよう工夫しながら授業を行った。

現在，生徒たちは，絵画分野・風景画における遠近法学習に取り組んでいることから，西洋で確立した「透視図法」を中心とする遠近法と，日本の伝統的な遠近表現の違いについて，一村の視点を基に考える手法も伝えた。



(3) 一村キッズクラブ

一村キッズクラブは、奄美の自然を描き続けた日本画家、田中一村を偲び、学ぶ場所として「田中一村終焉の家」を奄美の児童・生徒が大切にすることで、文化芸術や郷土を愛する心を育てるとともに、キッズクラブ会員の相互の親睦を図ることを目的とし、月1回の活動を行っている。

①5月 オリエンテーション

ア 開催日時 令和6年5月19日(日) 8:30～10:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒9名 保護者5名 計14名

エ 内容

令和6年度第1回目は、オリエンテーションとして自己紹介等を行ったあと、外組と内組に分かれ、「田中一村終焉の家」の清掃を行った。外組は、「終焉の家」周辺の除草作業をし、内組は、「終焉の家」の中をホウキで掃き、雑巾で拭いて汚れやホコリを落とした。

作業のあと、家の中で学芸専門員が、「田中一村」や「終焉の家」の軌跡について、年表や写真などの資料を使いながら解説した。

その後、一村が16年間住んだ家が建っていた場所（現在は道路）へ移動し、当時と今の様子を比較して理解を深めた。

参加者からは、「ここが最後に住んでいた家だとは知らなかった。奄美の自然の大切さを学んでいきたい」「人を描くのが好き。うまくなれるように頑張りたい」「ゴールデンウィークに田中一村記念美術館へ行き、初めて絵を見た。今日の講座を受けて、家の引っ越しの多さにびっくりした。友達と協力して活動を楽しみたい」との感想が挙がった。



②6月 スケッチ活動

ア 開催日時 令和6年6月16日(日) 8:30～10:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒5名 保護者2名 計7名

エ 内容

令和6年度第2回目は、「終焉の家」の清掃を行ったあと、「日本画の絵具を作って、使ってみよう」というテーマで活動を行った。

清掃作業では、雨漏り対策で畳の上に敷いてあったブルーシートを水洗いして雑巾で拭き、乾かした。室内の床はホウキで虫の死骸や羽を掃き、天井の蜘蛛の巣なども取り除いた。

作業のあと、「絵具は何で作られているか」ということについて資料を使いながら学芸専門員が解説し、現在は化学的に合成したものが主だが、昔は天然の土や鉱物などから作られていたことなどを学んだ。参加者は、青色の絵の具の原料として使われていた「ラピスラズリ」の原石を触ったり、日本画で使われる「膠」の臭いを嗅いだりしてよく観察していた。

その後、学芸専門員が鍋で膠を湯煎して溶かし、参加者は絵皿に好きな色の水干絵具と溶けた膠を入れて指で混ぜ、日本画の絵具を作り、画用紙に好きな絵を描き、参加者同士で絵具を交代するなどして、色による発色の違いや描き心地を試して楽しんだ。

参加者からは、「日本画の絵具は思ったよりざらざらしていた」「膠を初めて知った。昔の人はすごいと思った」「普段使っているチューブの絵具はとても便利だと思った」との感想が挙がった。



③ 9月 清掃活動・一村忌

ア 開催日時 令和6年9月10日（日） 11:00～14:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒7名 保護者3名 計10名 一村会・一般27名

エ 内容

令和6年度第5回目は、田中一村の命日（9月11日）に合わせて一村会（会長：美佐恒七）が主催する「第36回一村忌」に参加して活動を行った。

最初に、一村会の方々と終焉の家の清掃活動を行い、その後、祭壇作りや「一村忌」の準備を行った。

「一村忌」には一村会の方をはじめ、一村キッズクラブのメンバーや大島支庁長など27名が参列し、キッズクラブのメンバーも、一村の遺影にソテツの葉を手向けて手を合わせ、一村が残した功績に感謝した。その後、任意で「偲ぶ会」にも参加し、生前の一村について様々な話を一村会の方々からうかがった。

参加者からは、「もっと一村さんのことを知りたい」「一村終焉の家を大切に残していきたい」との感想が挙がった。



④ 10月 スケッチ活動

ア 開催日時 令和6年10月27日(日) 8:30～10:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒6名 保護者3名 計9名

エ 内容

令和6年度第6回目は、「終焉の家」の清掃を行ったあと、「水墨画に挑戦しよう」というテーマで活動を行った。

清掃作業では、雨漏り対策で畳の上に敷いてあったブルーシートを雑巾で拭き、乾かした。室内の床はホウキで虫の死骸等を掃き、天井の蜘蛛の巣なども取り除いた。

作業のあと、学芸専門員が田中一村展の図録を使って「水墨画」について解説し、参加者は一村も水墨画を描いていたことなどを学んだ。最初に参加者は墨の扱い方の説明を受け、墨の濃淡を意識しながら、思い思いに画仙紙（墨が滲みにくいように加工された用紙）に描く練習をした。

その後、水墨画でよく描かれる「竹」の描き方をデモンストレーションし、参加者もそれぞれ挑戦した。最後に、小色紙に秋らしいカボチャやクリなど好きな絵を描き、作品を完成させた。

参加者からは、「墨を使って絵を初めて描いたけど、楽しかった」「筆の扱いが難しかった」との感想が挙がった。



⑤ 12月 年賀状制作活動

ア 開催日時 令和6年12月22日(日) 8:30～10:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒3名 保護者2名 計5名

エ 内容

令和6年度第7回目は、「終焉の家」の清掃を行ったあと、「来年の干支をモチーフに年賀状をつくろう」というテーマで活動を行った。

清掃作業では、室内の床をホウキで掃き、雨漏り対策で畳の上に敷いてあったブルーシートや窓を雑巾で拭いた。

作業のあと、学芸専門員が来年の干支である「巳」を様々な技法を使って描き、描き方を指導した。参加者も蛇のイラストなどを参考にしながら、水彩絵具を使ってそれぞれ年賀状を制作した。

参加者からは、「水加減が難しかった」「学んだ技法に挑戦できて勉強になった」「たくさん描けて楽しかった」との感想が挙がった。



⑥1月 スクリーンプリント制作

ア 開催日時 令和7年2月16日(日) 8:30～10:00

イ 場所 田中一村終焉の家

ウ 参加者数 児童生徒7名 保護者3名 計10名

エ 内容

令和6年度第8回目は、「終焉の家」の清掃を行ったあと、「スクリーンプリントで一村キッズクラブのロゴマークをプリントしよう」というテーマで活動を行った。

当日は雨だったため、外の清掃活動は行わず、室内の床をホウキで掃き、雨漏り対策で畳の上に敷いているブルーシートや窓を雑巾で拭いた。

作業後に、学芸専門員がスクリーンプリントで使用する道具と仕組みを解説し、実際に紙にプリントした。プリントされた見本を見て、参加者は驚いていた。

参加者はまず、インクをつけずにヘラを動かす練習をした後、それぞれ持参したポロシャツやバッグへのプリントに挑戦した。

参加者からは、「ヘラを引くのが緊張したが、上手にプリントできてよかった」「かわいくできてよかった」「普段着ているTシャツなどのプリントの仕組みがわかって面白かった」との感想が挙がった。



(4) 田中一村終焉の家と、一村キッズクラブ

ア 開催期間 令和6年3月30日(土)～5月6日(月・振休) 9:00～18:00

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 参加者数 会期中の来場者数 4,426名

エ 内容

日本画家・田中一村が人生最後の日々を過ごした家が、現在、奄美市名瀬有屋町に「田中一村終焉の家」として大切に保存されており、一村の奄美での暮らしを今に伝える唯一の建築物となっている。

当企画展では、一村の没後、この家が辿ってきた歴史にスポットを当て、この家を後世に残すために尽力した地元奄美の一村会をはじめ、多くの方々の活動の軌跡を、当時の新聞記事や足跡を辿る年表、一村が16年間住んでいた地域の当時と現在の衛星写真を比較した解説パネル等を用いて紹介した。

また、「田中一村終焉の家」の保存・移転に係る会議資料や写真、移転の様子を描いたスケッチなどの貴重な資料と共に、亡くなる数ヶ月前の1977年5月に一村の家を訪問し、写真を撮影したことで知られる写真家の田辺周一氏(栃木県)の作品も併せて展示した。

その他、令和2年に結成した「田中一村終焉の家」の清掃活動を定期的に行い、スケッチなどの芸術活動をとおして一村について学ぶ「一村キッズクラブ」(小中高生で構成するボランティアクラブ)の活動についても、写真や解説を交えて紹介した。

また、現在の「田中一村終焉の家」を写した巨大なタペストリーを会場に設置し、「田中一村終焉の家」の雰囲気由来者へ感じていただくとともに、フォトスペースとして提供した。

来場者からは、「期間限定の展示はもったいない。常設されてもいい内容」「美術館へは何度も来ていたが、今回の展示のおかげで、今後絵を見るときにも感じるものが違うと思う」「一村キッズクラブの活動を楽しみにしている」との感想をいただいた。



第5 奄美パーク応援隊

(1) 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

(2) 隊員数 30名（令和7年3月31日現在）

(3) 年間活動実績回数 35回

(4) 活動内容

奄美パーク応援隊は、施設内のガイドを目的に平成15年度に発足した。平成18年度には、展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと、4つの分科会を設けたが、それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては、活動実績がない状況にあったため、再度、活動のあり方を見直した結果、平成26年度より分科会を廃止し、展示案内・手熟（三味線やシマ唄等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント、業務等への参加、園内の清掃）と、5つの活動内容で構成し、隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなった。

隊員には登録証を発行し、ボランティア活動保険への加入と、原則、年に2回以上の活動を義務付けている。登録証は応援隊の活動時以外でも、提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。

なお、事務局は月に一度、活動の予定や奄美パークの行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し、すべての隊員へ配付している。

(5) 活動実績

令和6年度は、新規隊員が7名、昨年度から引き続き更新のあった隊員が23名、計30名の加入申し込みがあった。

月2回の六調三線の練習は、固定メンバーを中心に、初参加の方なども暖かく迎え入れ楽しい雰囲気で行われていた。三線や太鼓の体験は、クルーズ船等で訪れた外国人旅行者にも好評で、興味を持つ方が多かった。団体バスの出発に合わせての六調でのお見送りは、パークアテンダントやバスガイドも来園者と一緒に踊って下さり、毎回、大いに盛り上がっている。また、令和7年1月4日の奄美パーク自主企画イベント「初春唄あしび」でも、最後の締めめの六調をお願いし、11名の有志の皆さんがステージ上で演奏して下さいました。

園芸作業は、昨年度に引き続き、2階テラスの花壇の整備を重点的に行い、手つかずで雑草が茂っていた箇所も整備できた。強風が当たる場所に強い種や、季節ごとに咲く花の苗や株の提供もしていただき、一年を通して花や緑が見られるようになった。

新規隊員の獲得や、高齢化等の課題もあるが、今後も、観光客の方とのふれあいや、パークの整備など、より充実した活動を行っていただけるよう、隊員の皆さんのお力をお借りしたい。



鹿児島県奄美パーク 令和6年度事業報告書

2024 LEAF 第23号

[発行日] 2026年3月

[編集・発行] 奄美群島広域事務組合

鹿児島県奄美パーク

住所：鹿児島県奄美市笠利町節田1834

電話：0997-55-2333 FAX：0997-55-2612

公式サイト：<https://amamipark.com/>